

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	豊村 晃丞
	(Carrier planning-Ⅰ)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日2時限
【授業の学習内容】 キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。 各種学校イベントを通し、クラスマネジメントを理解する。また、社会集団の一員として自身の立場を確立する。							
【到達目標】 ■社会人としても求められる、社会性・人間性を身に付けることが出来る。 ■クラス集団の中で協調性を持ちながらも自身の考え思いを人に伝えることが出来る。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業オリエンテーション：3年間のキャリアプランニングを理解する
2回目	学習能力チェック：今後の学習を円滑に進めていくために、現状の学習能力を確認する
3回目	セルフマネジメント/GWの過ごし方 キャリアデザイン/自己理解 Hand-book of Life Style
4回目	セルフマネジメント/GWの振り返り キャリアデザイン/3年間の計画 Hand-book of Life Style
5回目	学生生活サポート/成人の自由と責任 消費者被害 チームマネジメント/学園祭について
6回目	学生生活サポート/自転車のルール チームマネジメント/学園祭について
7回目	学生生活サポート/薬物問題 チームマネジメント/学園祭について
8回目	学生生活サポート/性犯罪 チームマネジメント/学園祭について
9回目	コミュニケーションワークショップ：ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する チームマネジメント/学園祭の振り返り
10回目	コミュニケーションワークショップ：ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
11回目	コミュニケーションワークショップ：ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
12回目	コミュニケーションワークショップ：ワークショップを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する 夏休みの過ごし方
13回目	スポーツフェスタについて① 宿泊研修事前課題① 前期試験に向けて
14回目	スポーツフェスタについて② 宿泊研修事前課題②
15回目	スポーツフェスタについて③ 宿泊研修について 前期振り返り、後期について
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨む
評価方法	1. 授業態度（30%） 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの（50%） 3. 出席（20%）
【使用教科書・教材・参考書】 ・Hand-book of Life Style ・オリジナルPowerPointなど	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅠ (Carrier planning-Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	豊村 晃丞
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日2時限
【授業の学習内容】 キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。 各種学校イベントを通し、クラスマネジメントを理解する。また、社会集団の一員として自身の立場を確立する。							
【到達目標】 ■社会人としても求められる、社会性・人間性を身に付けることが出来ている。 ■クラス集団の中で協調性を持ち							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォローシップを理解する ・Hand-book of Life Style
2回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォローシップを理解する ・Hand-book of Life Style
3回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォローシップを理解する ・Hand-book of Life Style
4回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォローシップを理解する ・Hand-book of Life Style
5回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォローシップを理解する ・Hand-book of Life Style
6回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォローシップを理解する ・Hand-book of Life Style
7回目	・コミュニケーションワークショップ/ワークショップを通し、リーダーシップ・フォローシップを理解する ・Hand-book of Life Style
8回目	チームマネジメント / 進級課題制作①、We are ECOについて①
9回目	チームマネジメント / 進級課題制作②、We are ECOについて②
10回目	チームマネジメント / 進級課題制作③、We are ECOについて③
11回目	チームマネジメント / 進級課題制作④、We are ECOについて④
12回目	チームマネジメント / 進級課題制作⑤、We are ECOについて⑤
13回目	チームマネジメント / 進級課題制作発表① 業界研修について
14回目	チームマネジメント / 進級課題制作発表② 業界研修について
15回目	1年間振り返り
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨む。
評価方法	1. 授業態度 (30%) 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの (50%) 3. 出席 (20%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・Hand-book of Life Style ・オリジナルPowerPointなど	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	プレゼンテーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代マキ
	Presentation I	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 3時限
【授業の学習内容】 社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。 表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習 ※担当教員: キャリアカウンセラー(技能士2級)、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や 管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。							
【到達目標】 元気な挨拶 相手の立場を考えて話す力 文章組み立て力 周りと協力する力 復習力							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の内容と意義について
2回目	なぜ学校で学ぶのか？グループワーク討議・伝え方のポイント
3回目	言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて
4回目	表情の意味・視線伝達マーク
5回目	相手意識を持った伝え方自己表現練習
6回目	聞くと聴くの違いと、きき上手のポイント
7回目	他己紹介準備
8回目	他己紹介
9回目	報告の仕方・PREP法を身につける。
10回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション準備
11回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション披露
12回目	言葉遣いと敬語の使い方①グループで美化語見つけ
13回目	言葉遣いと敬語の使い方②敬語を使用しての場面練習
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習、振り返り学習あり
評価方法	・プレゼン力:40% ・傾聴力:30% ・筆記試験:30%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	プレゼンテーション Presentation I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代マキ
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 3時限
【授業の学習内容】 社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。 表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習 ※担当教員実務経験: キャリアカウンセラー(技能士2級)、精神保健福祉士、公認心理師。学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力や 管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。							
【到達目標】 前期の目標に続き、更にグループの中の個の役割を果たす努力ができる 会話力やプレゼンテーション力を磨き現状の自分を知り、自信をもって、主体的に人と関わって行けるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	後期の目標設定
2回目	ストレス対策 性格の作られ方
3回目	効果的な質問の方法 他己紹介後期編準備
4回目	他己紹介 自己成長評価
5回目	バーバルコミュニケーションとグループワーク
6回目	ノンバーバルコミュニケーションとグループワーク
7回目	中間評価
8回目	仕事遂行能力ペアワーク
9回目	仕事遂行能力グループワーク
10回目	グループワークディスカッションと発表(意見とアイデア)
11回目	グループワークディスカッションと発表(課題解決)
12回目	一年間の成長プレゼン①
13回目	一年間の成長プレゼン②
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習、振り返り学習あり
評価方法	・プレゼン力:40% ・傾聴力:30% ・筆記試験:30%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コミュニケーションスキルアップ (Improving Communication Skills)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
		実施方法	対面授業		2	曜日・時限	金曜日 3限目
【授業の学習内容】 社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。 ※担当教員実務経験:各種セミナー(話し方、傾聴、新入社員研修等)を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。							
【到達目標】 12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の進め方、オリエンテーション(自己紹介)、コミュニケーションの定義【P9～】
2回目	第一印象(コミュニケーションの定義、メラビアンの法則、笑顔の作り方)【P14～】、基本的対話スキル、会話のプロセス
3回目	基本的対話スキル 「話し方」【P18～】
4回目	基本的対話スキル 「聴き方」【P23～】
5回目	基本的対話スキル 「グループでの会話」【P34～】
6回目	ローブレ:情報共有、整理・集約のゲーム①、中間試験対策
7回目	中間試験、自己表現スキル 「挨拶」「自己表現」【P42～】
8回目	中間評価フィードバック、自己表現スキル 「上手な頼み方、断り方」「自己主張」【P46～】
9回目	自己表現スキル 「報連相」「会議・ミーティング」【P60～】
10回目	自己表現スキル 「アンガーマネジメント」【P80～】
11回目	社会的スキル 「基本的な社会的スキル」【P94～】
12回目	社会的スキル 「挨拶」「敬語」「電話応対」【P96～】
13回目	前期評価テスト 対策
14回目	前期評価テスト 実施 試験後、教科書のポイントを再度伝え、内容を理解させる
15回目	前期評価テスト 解説 後期の授業の進め方
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておく
評価方法	試験100%
【使用教科書・教材・参考書】 コミュニケーションスキルアップ検定(JESC)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コミュニケーションスキルアップ (Improving Communication Skills)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	後期
		実施方法	対面授業		2	曜日・時限	金曜日 3限目
【授業の学習内容】 社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。 ※担当教員実務経験:各種セミナー(話し方、傾聴、新入社員研修等)を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。							
【到達目標】 12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ローブレ:ビジネス電話検定、電話応対ゲーム
2回目	社会的スキル「接客」「訪問」【P105～】
3回目	社会的スキル「謝罪」【P112～】
4回目	ローブレ:接客、訪問、名刺交換
5回目	社会的スキル「ビジネス文書」「メール」「FAX」「SNS」【P116～】
6回目	中間試験対策
7回目	中間試験、サービスマインドとは
8回目	中間評価フィードバック DVD鑑賞 マナーの本質「相手を思いやる心」
9回目	サービスマインド「サービスとは」「サービスの心得」【P126～】
10回目	サービスマインド「サービス基本要素」【P132～】
11回目	ローブレ:ビジネスシュミレーションゲーム(敬語・電話応対・訪問・接客)
12回目	謝罪(謝る、お詫びする)、マナーを意識した行動
13回目	後期期末試験対策
14回目	後期期末試験、ビジネスシュミレーションワーク
15回目	1年間の総復習、ローブレBB28:H33
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておく
評価方法	試験100%
【使用教科書・教材・参考書】 コミュニケーションスキルアップ検定(JESC)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	千葉恵一
	(Computer Skills Practice)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限 火曜日4時限
【授業の学習内容】 業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。 ※実務者経験 滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(23年)							
【到達目標】 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる Wordを使ってレポート作成が出来るようになる 安全にインターネットを利用出来るようになる 「We are ECO」のスライドが作れるようになる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション／ITリテラシー①
2回目	ITリテラシー②
3回目	Wordの基本操作①
4回目	Wordの基本操作②
5回目	Wordの基本操作③
6回目	Wordの基本操作④
7回目	Wordの基本操作⑤
8回目	Word中級編①
9回目	Word中級編②
10回目	Word中級編③
11回目	Wordの応用①
12回目	Wordの応用②
13回目	Wordの応用③
14回目	期末評価/Wordの応用まとめ
15回目	PowerPoint基礎①
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認する
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%) ※中間・期末の評価は提出作品(Word作品提出)
【使用教科書・教材・参考書】 Word office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版) Excel office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	千葉恵一
	(Computer Skills Practice)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限 火曜日4時限
【授業の学習内容】 業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。 ※実務者経験 滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(23年)							
【到達目標】 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる Wordを使ってレポート作成が出来るようになる 安全にインターネットを利用出来るようになる 「We are ECO」のスライドが作れるようになる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	PowerPoint基礎(印刷、スライドマスター、切り替え効果、アニメーション)
2回目	PowerPoint課題提出
3回目	Excelの基礎①
4回目	Excelの基礎②
5回目	Excelの基礎③
6回目	Excelの基礎④
7回目	Excel中級編①
8回目	Excel中級編②
9回目	Excel中級編③
10回目	Excel中級編④
11回目	Excelの応用①
12回目	Excelの応用②
13回目	Excelの応用③
14回目	期末評価/Excel応用まとめ
15回目	まとめ(Word・Excel・PowerPoint)
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認する
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%) ※中間・期末の評価は提出作品(PowerPoint作品提出・Excel作品提出)
【使用教科書・教材・参考書】 Word office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版) Excel office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	アニマルベーシック	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高山 清次
	(Animal Study Basics)	授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	土曜日4時限
【授業の学習内容】							
動物に関する勉強をする場合の生物学的基礎知識を理解することを目的とする。							
※担当教員: 麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了 / 獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】							
この科目を受講した学生が、基礎生物学の知識を身につけることにより、動物業界で活躍する人材になることを目標としている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	光合成・食物連鎖、血液の役割・成分・生成、消毒滅菌について理解できる。
2回目	ゾーノシス、濃度計算と希釈法、バイタルサイン、生体防御システムについて理解できる。
3回目	エイズと免疫、アレルギーと免疫、ワクチンと免疫、外分泌と内分泌、代謝について理解できる。
4回目	五大栄養素、遺伝、繁殖、イヌとネコの交配について理解できる。
5回目	DNA・遺伝子・ゲノム、体細胞クローン動物、外来種、絶滅危惧種について理解できる。
6回目	温暖化、酸性雨、オゾンホール、エコロジー関連の国際条約について理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 「ECO業界で役立つ基礎生物(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」	

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	動物の体のしくみ (Animal Anatomy and Physiology)	必修 選 択	必修	年 次	1	担当教員	高山 清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用		曜日・時限	土曜日4時限	
【授業の学習内容】							
犬を中心とした基本的な動物の体の構造・骨格や生理的な知識について、理解することを目的とする。							
※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了／獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】							
犬の体を構成する各機関の位置、構造、機能をそれぞれ理解することにより、動物の飼養管理や疾病予防に役立つことを目標としている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	外皮系、消化器系(歯・食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆のう・膵臓)の構造と働きについて理解できる。
2回目	泌尿器系(腎臓・膀胱)、呼吸器系(気管・肺)の構造と働きについて理解できる。
3回目	生殖器系(雄性生殖器・雌性生殖器)、内分泌系(下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・胸腺)の構造と働きについて理解できる。
4回目	循環器系(心臓・血液循環・リンパ系)、感覚器系(眼球・耳)の構造と働きについて理解できる。
5回目	神経系(脳・脊髄)、筋系(骨格筋・横隔膜)の構造と働きについて理解できる。
6回目	骨格系(骨格)、細胞の構造と働きについて理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 「イラストで見る動物の体のしくみ(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物の健康管理 (Animal Health Management)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高山 清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	土曜日4時限
【授業の学習内容】 動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解することを目的とする。 ※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】 動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解できている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ウオンバット・キツネ・キリン・カンガルーなどの飼養管理について理解できる。
2回目	クマ・タヌキ・ゾウ・ニホンザルなどの飼養管理について理解できる。
3回目	アザラシ・イルカ・ウミガメ・クラゲなどの飼養管理について理解できる。
4回目	イヌ・ネコ・ウサギ・インコ・モルモットなどの飼養管理について理解できる。
5回目	ウシ・ウマ・ニワトリ・ブタなどの飼養管理について理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 「イラストで見る動物の飼養管理(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	アニマルヒストリー (History of Interconnection between Animals and Humans)	必修 選 択	必修	年 次	1	担当教員	高山 清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	土曜日4時限
【授業の学習内容】							
動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。							
※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了／獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】							
この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標とする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	動物の進化とゲノムDNAの進化について理解できる。
2回目	イエイヌの歴史、人間と家畜の歴史、動物の仕事に携わる者としての倫理を理解できる。
3回目	ペットビジネスの種類を理解し、環境を守る観察と観光について知識を深めることができる。
4回目	動物介在療法(AAT)と動物介在活動(AAA)、動物が人に与える効果について、セラピーに向く動物の育成、ペットロスについて、理解できる。
5回目	牧羊犬、警察犬、救助犬、身体障害者補助犬法、盲導犬、介助犬、聴導犬、ズーノーシスについて理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 「動物年表で知るアニマルヒストリー(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	次世代のための環境教育 (Environmental education for the next generation)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高田 浩二
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限

【授業の学習内容】

環境教育という言葉は、45年前の1975年に国連のベオグラード憲章の中で提唱された言葉である。また、我が国の公害も水俣病のように1950年代からすでに問題になっており、環境に対する人々の興味関心を高める教育は半世紀以上前から重要視されてきていた。近年、SDG'sやマイクロプラスチックが注目されているが、環境教育は近年のトレンドではない。私たちは古くからあった環境問題を学ぶために誰からどのような機会を与えられてきたか、またそもそも地球にとって環境とはなにかを知っておく必要もある。本講義では地球環境や環境教育に対する基礎から応用までを解説し、それぞれに理解できることで、次世代の環境に対する認識や知識の習得を目指す。

※担当教員実務経験:

1988年6月～2016年6月まで海の中道海洋生態科学館に勤務し(2004年～2016年は館長を歴任)、その後、福山大学生命工学部海洋生物科学科教授を2019年3月まで歴任し現在、海と博物館研究所長を務める。水族館に限らず広く博物館学や学芸員養成課程にも携わり、福岡県内の大学でも教鞭をとってきた。

【到達目標】

講師が長年勤務してきた水族館の環境教育の展示や解説、教育普及の活動、また、生き物の命を預かる場でもある水族館の役割などにも理解を深める。さらに、そもそも私たちの住む地球がどれほど奇跡的な出来事の繰り返しで今日の環境ができているのかについて、具体的な環境因子ごとに、例えば「光」という当たり前の存在が宇宙誕生から今までの悠久の時間の流れの中での影響についても関心を深める。

<具体的な目標>

目標①水族館や博物館の役割の中で、環境教育にどれほど寄与できるかに気付くことができる。

目標②地球上の様々な環境因子が、生物やその進化にどう影響を与えて今の環境があるかに気付く。

目標③多くの環境問題の実態を知り、自分がどのように行動すべきか、具体的なイメージをつかむことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	(目標①)海の命から学ぶ環境教育 水族館の役割の中にある環境教育に気付く。
2回目	(目標①)ヒトが動物を飼う(命を預かる)環境とは 動物園水族館に限らず、ペットや畜産などにおける人の飼育という行為や環境に理解を深める。
3回目	(目標②)環境要因 光と生物1 光とは何かについて宇宙物理学的視点から生物への影響に気付く、環境要因の1つである光に理解を深める。
4回目	(目標②)環境要因 光と生物2 光が生物進化のなかでどのように環境因子として関係してきたかについて理解をする。
5回目	(目標②)環境要因 光と生物3 光と色の関係やそれらが生物の目の発達にどう影響してきたか気づく。
6回目	(目標②)環境要因 生物の住環境について生態学という側面から考えることができるようになる。
7回目	(目標②)環境要因 振り返り学習 地球誕生のYouTube教材視聴と感想交流することで他の学生と学びを深める。
8回目	(目標②)環境要因 鉄と生物1 地球環境における鉄の循環が生物にとって重要な呼吸にどう関与しているかを知る。
9回目	(目標②)環境要因 鉄と生物2 生物の呼吸の仕組みが環境とどう関係しているか、呼吸確保の仕組みを知る。
10回目	(目標②)環境要因 塩分と生物 水辺にすむ生物が塩分と生息環境がどう関与しているか気づく。
11回目	(目標③)海洋プラスチック問題と博物館 近年になって問題されるマイクロプラスチックによる海洋汚染に博物館はどう関与できるかを知る。
12回目	(目標③)欧米の水族館における環境教育とその展示 環境教育先進国での事例から我が国の水族館の在り方を考える。
13回目	(目標③)動物愛護や環境保全に関する法律と水族館 環境問題に関する法律を知ること自分の行動の在り方に気付く。
14回目	定期試験と13回授業までのふりかえり
15回目	模範解答の解説 (水族館博物館を楽しい環境教育の場にするために)
準備学習 時間外学習	(目標①)できるだけ多くの博物館、水族館を見学、もしくはウェブサイト経由で訪問する。 (目標②)中学校時代の理科学習(物理、地学、生物、化学)を多面的な視点で振り返ってみる。 (目標③)日常の身の回りの出来事になぜ、どうしてという気持ちや視点で見つめなおす。 (目標③)これからの水族館や博物館がどうなっていくか環境問題との関連から想像する。
評価方法	毎回の講義に簡単な授業感想を書いて提出する。13回目のワークショップは制作物で評価する。中間テストは行わない。 ●授業感想と制作物(10%) ●定期テスト(90%) 上記の割合で成績評価を行う。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:特になし。 参考書:水族館の仕事、「西源二郎・猿渡敏郎」編著 東海大学出版会。海洋プラスチックごみ問題の真実、「磯辺篤彦」著 DOJIN選書。必ずしも買わなくてもよい。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	次世代のための環境教育 (Environmental education for the next generation)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	大橋 光雄
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト 専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 1時限
【授業の学習内容】							
環境問題の概略を理解し、ジレンマや事例研究を参考にトリレンマ懸案をどのように自分たちの職場や社会にしていけるか、またワークショップ(workshop)を用い読み解く力をつける。 ※担当教員実務経験:福岡県キャンプ協会名誉会長、元(公益社)日本キャンプ協会 理事 専門委員、キャンプディレクター1級、プロジェクトワイルドファシリテーター、アメリカ冒険学校NOLS WRWコース終了							
【到達目標】							
自分たちの業界と環境問題のつながりを知り、環境教育の必要性と目的を理解する。また、自然環境の一員としての人間の位置づけを環境倫理の面から掘り下げて考察する。その上で主に9の категорияで環境教育を紐解き多様な考えや社会経済との結びつきを考えることができるようになる。各時間の授業のPPTを用い内容にそった講義とワークショップ(workshop)を通して理解を深めるようにする。また、実際に今の環境教育が考えられるように新聞報道や環境教育の取り組みアクティビティ等演習を実施する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ガイダンス・環境教育の必要性と目的
2回目	世界の環境問題1(地球温暖化)海洋のメカニズム
3回目	世界の環境問題2(海洋と生物多様性)仕組みと身近な事例
4回目	世界の環境問題3(オゾン層の破壊)
5回目	世界の環境問題4(海洋汚染～ゴミ問題～食糧問題)
6回目	環境問題の啓発者の探る1. Severn Cullis-Suzuki リオの伝説のスピーチを読み解く
7回目	環境問題の啓発者の探る2. 世界の環境教育の流れ「ベオグラート憲章」
8回目	日本の環境教育の流れ「関心・理解・行動」日本型の検証
9回目	環境教育における環境倫理 酸性雨・海洋汚染 マイクロプラスチック
10回目	環境教育における環境倫理 有害廃棄物の越境移動
11回目	環境教育における環境倫理 水生生物種の減少1 マイクロプラスチック
12回目	環境教育における環境倫理 水生生物種の減少2 マイクロプラスチック
13回目	環境教育における環境倫理 ジレンマからトリレンマ 砂漠化
14回目	理解度の確認 Q&A 環境クイズ エコ検定
15回目	試験の解説と補足
準備学習 時間外学習	毎回動画や新聞を題材に用いアクティブラーニングESD(Education for Sustainable Development) SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)等を用いる。世界の動きやニュースソースに関心を持ち環境用語を理解しておくこと
評価方法	定期試験80% 発表10% 受講出席率10%
【使用教科書・教材・参考書】	
適宜 資料を配布する。また授業理解のためのミニテストを行う。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	魚類研究 (Fish Biology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福田海輝
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限or4時限

【授業の学習内容】

本物の魚を用いたスケッチから始め、魚の形(構造)をとらえる。また、成長段階や生活史の区分等、広く魚類学についての用語を理解する。条件が合えば、実際に人工繁殖も行い、魚の発生方法や産卵に至るメカニズムを探る。その他、生物関連のニュース等をピックアップし、自然及び生物多様性と人との関わり、動物業界と社会の繋がりを理解する。

※担当教員実務経験:2015.4～北九州市の公共施設にて環境教育施設に勤務 / 2021.5～福岡エコ動物海洋専門学校非常勤講師

【到達目標】

- ・魚類に関する基本的な用語を理解する
- ・環境教育に関わるうえで必要となる基本的な心構えをある程度理解する。
- ・自分が感じた魅力を相手に言葉で伝えられるようになる
- ・イベント参加者や来館者の年齢層に合わせた話のネタを見つけられる
- ・環境教育現場その他で便利なロープワークが出来るようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	自己紹介/施設紹介/授業内容説明
2回目	スケッチ～紙と鉛筆でシルエットをとらえる～
3回目	魚類の分類体系～脊椎動物の中の魚～
4回目	標準和名と別名/魚の体の構造
5回目	ロープワーク/日本産魚類とは
6回目	魚類の分類体系～ヤツメウナギの仲間～
7回目	魚類の分類体系～軟骨魚類～
8回目	ロープワーク/在来種と外来種
9回目	計数形質と計測形質
10回目	魚類の分類体系～コイ目～
11回目	魚類の分類体系～ナマズ目～
12回目	ロープワーク
13回目	博多湾釣り実習
14回目	前期期末試験
15回目	試験返却
準備学習 時間外学習	・生物関連ニュースに目を通し、自分の考えを持つこと
評価方法	・中間試験 …25% ・前期期末試験 …75%
【使用教科書・教材・参考書】	
講師持参レジメ	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	魚類研究	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福田海輝
	(Fish Biology)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限or4時限
【授業の学習内容】 前期で踏まえた内容をもとに、後期はより発展した内容の実習とする。また、近年重要視されつつある里山などの二次的自然の保全や環境系事業でも応用できるような、より派生した「環境教育に関する知識」を学んでいく。題材は前記と同じく講師所属施設の取り組みをもとに、その他の園館での取り組みなども盛り込む。 ※担当職員実務実績:2015.4～北九州市の公共施設にて環境教育施設に勤務 / 2021.5～福岡エコ動物海洋専門学校非常勤講師							
【到達目標】 ・魚類に関する基本的な用語を理解する ・環境教育に関わるうえで必要となる基本的な心構えをある程度理解する。 ・自分が感じた魅力を相手に言葉で伝えられるようになる ・イベント参加者や来館者の年齢層に合わせた話のネタを見つけられる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ロープワーク/魚類の分類体系～スズキ目①～
2回目	魚類の分類体系～スズキ目②～
3回目	博多湾釣り実習
4回目	魚類の分類体系～スズキ目③～
5回目	博多湾釣り実習
6回目	魚の捌き方実習
7回目	魚類の分類体系～スズキ目④～
8回目	魚の体形による呼称/呼吸器系と血液循環
9回目	ロープワーク/生活史による呼び分け
10回目	魚類の分類体系～カレイ目～
11回目	ロープワーク総ざらい/魚の回遊
12回目	魚類の分類体系～フグ目～
13回目	魚類学用語おさらい
14回目	後期期末試験
15回目	試験返却
準備学習 時間外学習	・生物関連ニュースに目を通し、自分の考えを持つこと
評価方法	・中間試験 …25% ・前期期末試験 …75%
【使用教科書・教材・参考書】 講師持参レジメ	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅰ (Aquatic Animals and Plants RearingⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	細川信行/永富敦也
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3、4時限 or 木曜日3、4時限

【授業の学習内容】

観賞魚水槽の立ち上げから飼育、メンテナンスを通して、淡水性観賞魚飼育の基本を実践的に学ぶ。

※担当教員実務経験

細川信行: aqua shop D-aquarium 代表

世界水草レイアウトコンテストの入賞経験があるなど、水槽レイアウトは世界レベルでオリジナリティ溢れる技術を持つ。

永富敦也: 水景アトリエ代表。アクアリウムデザイナー。

【到達目標】

淡水性観賞魚の基本を身に着けるとともに、器具の管理方法、メンテナンス方法、病気の治療方法を習得する。

(具体的な目標)

①水槽の設置、器具のセッティングなど飼育器具の種類・取扱いについて説明できる。

②日々の管理(換水・給餌・メンテナンス)について説明できる。

③トラブル発生時(病気の発生・魚の死亡・飼育水の汚濁・コケの発生)の対応が適切に行える。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	実習室設備説明 注意事項 各自水槽設備確認 授業内容評価方法説明
2回目	濾過装置の構造説明 配管作業
3回目	フィルター呼び水方法解説・注水作業・呼び水
4回目	メンテナンス器具取扱い方法 コケ落とし 換水作業方法
5回目	メンテナンス実践＋評価
6回目	生体導入 水合わせ方法 / エサの種類 給餌方法＋評価
7回目	飼育管理演習①
8回目	濾過装置メンテナンス方法
9回目	飼育管理演習②
10回目	コケ・シダ、活着系水草の取り扱い/魅せ方
11回目	飼育管理演習③
12回目	飼育管理演習④解説
13回目	Co2添加方法解説
14回目	飼育管理演習④＋評価試験(水槽評価)
15回目	飼育管理演習⑤＋Co2配管
準備学習 時間外学習	担当水槽の点検・足し水・水槽回りの清掃作業を常に行い、環境維持と美化に務める。 生体導入後は、毎日の給餌と観察を行い、生体の健康な育成に努める。
評価方法	■授業内評価(100%)・・・出席率・ガラス面と器具清掃・底床、器具管理・生体の健康状態・水の透明度・周辺美化

【使用教科書・教材・参考書】

自作テキスト・レイアウト制作設備・必要機材及びレイアウト素材

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅰ (Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	細川信行/永富敦也
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3、4時限 or 木曜日3、4時限

【授業の学習内容】

観賞魚水槽の立ち上げから飼育、メンテナンスを通して、淡水性観賞魚飼育の基本を実践的に学ぶ。

※担当教員実務経験

細川信行:aqua shop D-aquarium 代表

世界水草レイアウトコンテストの入賞経験があるなど、水槽レイアウトは世界レベルでオリジナリティ溢れる技術を持つ。

永富敦也:水景アトリエ代表。アクアリウムデザイナー。

【到達目標】

水草の育成からレイアウトの基本を理解し、観賞価値の高い水槽を制作できる。

(具体的な目標)

- ①水草の種類、植栽方法 管理方法を説明できる。
- ②水草を育成するための器具の仕組み、取扱いを理解する。
- ③レイアウトの基本を理解し、制作 管理ができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	水草レイアウトの基本構図 流木
2回目	水草レイアウトの基本構図 石組
3回目	前景中景後景 それぞれに適した水草
4回目	水草のカット トリミング方法
5回目	トラブル時の対処方法について・コケの駆除とメンテナンスフィッシュ
6回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導 水槽評価
7回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導 水槽評価
8回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導 水槽評価
9回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導 水槽評価
10回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導 水槽評価
11回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導 水槽評価
12回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導 水槽評価
13回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導 水槽評価
14回目	メンテナンス 演習 レイアウト指導 期末評価
15回目	メンテナンス 演習 レイアウト水槽撤去 総評 評価発表
準備学習 時間外学習	担当水槽の点検・足し水・水槽回りの清掃作業を常に行い、環境維持と美化に務める。 生体導入後は、毎日の給餌と観察を行い、生体の健康な育成に努める。 水草の生育状況を観察し、状況に応じた対処を行う。
評価方法	■授業内評価(50%)・・・出席率・ガラス面と器具清掃・底床、器具管理・生体の健康状態・水の透明度・周辺美化 ■作品評価(50%)……………全体的な印象度、完成度・構図評価・レイアウトの基本を押さえているかどうか・適切な水草の植栽と育成
【使用教科書・教材・参考書】	
自作テキスト・レイアウト制作設備・必要機材及びレイアウト素材	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	観賞魚研究 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	細川信行
	(Ornamental Fish I)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限
【授業の学習内容】							
淡水水生生物を飼育管理するうえで必要な、淡水魚種に関する知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及び浄化システムに関する知識を自作のテキストを用いて学習する。 ※担当教員実務経験:aqua shop D-aquarium 代表。 世界水草レイアウトコンテストの入賞経験があるなど、水槽レイアウトは世界レベルでオリジナリティ溢れる技術を持つ。							
【到達目標】							
淡水水生生物飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。 基礎知識を生かし、様々な飼育法に応用できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介。1年間を通して行う授業内容及び方法の説明。 自作テキスト資料配布。
2回目	淡水観賞魚の概要説明。淡水観賞魚の原産地・商業養殖について。
3回目	淡水魚の分類、グループ・代表種 学名について。
4回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/水槽に関する知識。
5回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/濾過フィルター・濾過材・濾過バクテリアに関する知識。
6回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/照明器具・保温器具・底砂に関する知識。
7回目	淡水水生生物飼育に必要な器材/その他設備、備品に関する知識。
8回目	ろ過の仕組み 三つのろ過(物理・生物・吸着)
9回目	ろ過サイクル(生物ろ過の重要性)
10回目	様々な水質(pH・GH・KHなど)
11回目	セットアップとメンテナンス 設置の注意点・立ち上げ方法
12回目	セットアップとメンテナンス メンテナンス手順
13回目	セットアップとメンテナンス 給餌
14回目	前期評価及び前期振り返り①
15回目	前期振り返り②
準備学習 時間外学習	数千種にも及ぶ観賞魚の種類とその飼育方法を講義の中だけで全て把握する事は困難である為、常日頃から図鑑・飼育本などを参照し知識の蓄積に努める。 並行して実際に観賞魚店などを訪れ、生体・飼育器具・飼育方法など生の情報収集行う。 定期的に発行されるアクアリウム専門誌などにも目を通し、最新の情報・新商品・新着魚種などにもアンテナを張る。 実際に自宅で観賞魚の飼育が行えればなお良い。
評価方法	■筆記試験:100%
【使用教科書・教材・参考書】	
自作テキスト 業界専門誌	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	観賞魚研究Ⅰ (Ornamental FishⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	細川信行
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限
【授業の学習内容】 淡水水生生物を飼育管理するうえで必要な、淡水魚種に関する知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及び浄化システムに関する知識を自作のテキストを用いて学習する。 ※担当教員実務経験:aqua shop D-aquarium 代表。 世界水草レイアウトコンテストの入賞経験があるなど、水槽レイアウトは世界レベルでオリジナリティ溢れる技術を持つ。							
【到達目標】 淡水水生生物飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。 基礎知識を生かし、様々な飼育法に応用できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	淡水魚の病気・魚病の要因 感染性・非感染性 魚の皮膚構造
2回目	淡水魚の病気/病原体別魚病解説・白点病 (白点病のライフサイクル)
3回目	淡水魚の病気/治療方法 薬浴・加温治療・塩水浴
4回目	淡水魚の病気/治療方法(その他の魚病) 写真スライド解説
5回目	淡水魚の病気と治療/薬使用時の注意点・塩の効能
6回目	水草育成の基本 概要 分類
7回目	水草をきれいに育てる為に 器具説明 照明 底床材
8回目	水草をきれいに育てる為に 器具説明 二酸化炭素添加装置 その他
9回目	水草をきれいに育てる為に 水草の種類
10回目	水草をきれいに育てる為に 水草の下処理と植栽
11回目	水草水槽の維持管理 藻類の予防と駆除 / 藻類発生の要因①～③
12回目	水草水槽の維持管理 藻類の予防と駆除 / 藻類の予防と駆除
13回目	水草レイアウトの作り方/水草レイアウトの種類(ダッチ・ネイチャー・ランドスケープ)
14回目	後期評価及び後期振り返り①
15回目	後期振り返り②
準備学習 時間外学習	数千種にも及ぶ観賞魚の種類とその飼育方法を講義の中だけで全て把握する事は困難である為、常日頃から図鑑・飼育本などを参照し知識の蓄積に努める。 並行して実際に観賞魚店などを訪れ、生体・飼育器具・飼育方法など生の情報収集を行う。定期的に発行されるアクアリウム専門誌などにも目を通し、最新の情報・新商品・新着魚種などにもアンテナを張る。 実際に自宅で観賞魚の飼育が行えればなお良い。
評価方法	■筆記試験:100%
【使用教科書・教材・参考書】 自作テキスト 業界専門誌	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水族館総合演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	株式会社海の中道海洋生態科学館 飼育員
	(Comprehensive Aquarium Studies)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日2時限
【授業の学習内容】 水族館の社会的役割、水・海水の特性、海水の循環、生物採集に関する関連法律、水族館展示技法、病気の診断と治療などの水族館の基礎知識を座学で学び、フィールド調査では調査、観察、記録方法を楽しむ学び、得られた結果より考察する力を見につける。 ※担当教員実務経験:株式会社海の中道海洋生態科学館、マリンワールド海の中道の飼育員が授業を担当。							
【到達目標】 水族館の社会的使命を理解し、即戦力として現場で求められる知識・技術を学ぶ。 また年間4回のフィールド調査を通じて、調査技法、生物採集方法、採集された生物の種同定、保全活動を実践しながら身に着ける。 フィールド調査は下記の点を重点項目とする。 ①海浜部:曳網採集、アマモ移植・保全活動 ②環境共生の森:ニッポンバラタナゴ、水生植物、水生昆虫・カスミサンショウウオ保全活動、水田稲作							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	水族館の役割を理解し、説明できる。
2回目	水・海水の特性、循環の仕組み、水温躍層を理解し説明できる。
3回目	1回目 フィールド調査 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンバラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	展示生物の採集・輸送方法を説明できる。
8回目	フィールド演習を振り返り、海水の循環を説明できる。
9回目	2回目 フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンバラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	前期授業のまとめ
14回目	前期評価試験及び振り返り
15回目	調査研究活動の実践例を学び、説明できるようになる。
準備学習 時間外学習	・水族館が担う4つの役割を理解し、各園館の取り組みを調べる。 ・各授業の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度 20% 筆記試験 80%
【使用教科書・教材・参考書】 新・飼育ハンドブック水族館編テキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水族館総合演習 (Comprehensive Aquarium Studies)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	株式会社海の中道海洋生態科学館 飼育員
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日2時限
【授業の学習内容】 水族館の社会的役割、水・海水の特性、海水の循環、生物採集に関する関連法律、水族館展示技法、病気の診断と治療などの水族館の基礎知識を座学で学び、フィールド調査では調査、観察、記録方法を楽しむ、得られた結果より考察する力を見につける。 ※担当教員実務経験:株式会社海の中道海洋生態科学館、マリンワールド海の中道の飼育員が授業を担当。							
【到達目標】 水族館の社会的使命を理解し、即戦力として現場で求められる知識・技術を学ぶ。 また年間4回のフィールド調査を通じて、調査技法、生物採集方法、採集された生物の種同定、保全活動を実践しながら身に着ける。 フィールド調査は下記の点を重点項目とする。 ①海浜部:曳網採集、アマモ移植・保全活動 ②環境共生の森:ニッポンバラタナゴ、水生植物、水生昆虫・カスミサンショウウオ保全活動、水田稲作							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	水族館での繁殖の取り組みについて理解し、説明できる。
2回目	水族館での病気と治療について理解し、説明できる。
3回目	3回目 フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンバラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	水族館での飼育・展示技法について理解し、説明できる。
8回目	水族館での展示・解説方法について理解し、説明できる。
9回目	4回目 フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンバラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	後期授業のまとめ
14回目	後期評価試験および振り返り
15回目	水族館の社会・教育活動について理解し、説明できる。
準備学習 時間外学習	・水族館が担う4つの役割を理解し、各園館の取り組みを調べる。 ・各授業の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度 20% 筆記試験 80%
【使用教科書・教材・参考書】 新・飼育ハンドブック水族館編テキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水族館概論 (Introduction to the Aquarium)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	山田重隆
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 2時限
【授業の学習内容】 日本動物園水族館協会が発行するテキストを基に水族館の4つの役割を理解し、「概論」「分類」「生理」「生態」「輸送」「保存」「繁殖」「餌料」「病気」「収集」「輸送」「保存」「展示」「教育」「広報」「施設」「危機管理」について、水族館運営に必要な不可欠な基礎知識を習得する。 ※担当教員実務経験：水族館うみたまごにて、学芸員、飼育担当として37年間勤務。							
【到達目標】 水族館における動物飼育知識や運営面での基本を理解し、主要な項目について説明出来るようになる。 また、水族館の採用試験に対応出来る学力を培う。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション、新・飼育ハンドブック水族館編3「概論」①
2回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「概論」②
3回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「分類」①
4回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「分類」②
5回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「生理」
6回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「生態」①
7回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「生態」②
8回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「繁殖」①
9回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「繁殖」②
10回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「餌料」①
11回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「餌料」②
12回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「病気」①
13回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「病気」②
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	前期の振り返り及び解説
準備学習 時間外学習	新・飼育ハンドブックの次回授業範囲を熟読し、疑問・不明点などを明確にして授業に臨む。
評価方法	期末試験80% 授業に臨む姿勢及び出席20%
【使用教科書・教材・参考書】 改訂版 新・飼育ハンドブック水族館編1～5	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水族館概論 (Introduction to the Aquarium)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	山田重隆
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 2時限
【授業の学習内容】 日本動物園水族館協会が発行するテキストを基に水族館の4つの役割を理解し、「概論」「分類」「生理」「生態」「輸送」「保存」「繁殖」「餌料」「病気」「収集」「輸送」「保存」「展示」「教育」「広報」「施設」「危機管理」について、水族館運営に必要な不可欠な基礎知識を習得する。 ※担当教員実務経験:水族館うみたまごにて、学芸員、飼育担当として37年間勤務。							
【到達目標】 水族館における動物飼育知識や運営面での基本を理解し、主要な項目について説明出来るようになる。 また、水族館の採用試験に対応出来る学力を培う。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	新・飼育ハンドブック水族館編5 「施設・危機管理」①
2回目	新・飼育ハンドブック水族館編5 「施設・危機管理」②
3回目	新・飼育ハンドブック水族館編5 「施設・危機管理」③
4回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「収集」①
5回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「収集」②
6回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「輸送」①
7回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「輸送」②
8回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「保存」①
9回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「保存」②
10回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示・教育」①
11回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示・教育」②
12回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示・教育」③
13回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「広報」
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	後期の振り返り及び解説
準備学習 時間外学習	新・飼育ハンドブックの次回授業範囲を熟読し、疑問・不明点などを明確にして授業に臨む。
評価方法	期末試験80% 授業に臨む姿勢及び出席20%
【使用教科書・教材・参考書】 改訂版 新・飼育ハンドブック水族館編1～5	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	両生・爬虫類研究 (Amphibians and Reptiles)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	川中 豪
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	遠隔授業			曜日・時限	土曜日3時限
【授業の学習内容】 爬虫類および両生類の様々な生態や行動について映像で学ぶとともに、飼育に応用できる技術や知識を習得する。 ※担当教員実務経験：ペットショップ(エキゾチックアニマル、観賞魚)勤務及び観賞魚用品開発メーカーにて開発業務に従事。							
【到達目標】 爬虫類や両生類の管理を任されたときに、学んだ内容を活用し動物にとっての健康的な飼育ができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	様々な爬虫類の種類とその姿を鑑賞、生態や種について解説1
2回目	様々な爬虫類の種類とその姿を鑑賞、生態や種について解説2
3回目	様々な両生類の種類とその姿を鑑賞、生態や種について解説1
4回目	様々なエキゾチックアニマルの種類とその姿を鑑賞、生態や種について解説1
5回目	トカゲの体の構造や動きについて
6回目	ヘビの体の構造や動きについて
7回目	カメの体の構造や動きについて
8回目	ワニの体の構造や動きについて
9回目	カエルの体の構造や動きについて
10回目	爬虫類の分類について
11回目	両生類の分類について
12回目	擬態する爬虫類や両生類について1
13回目	擬態する爬虫類や両生類について2
14回目	評価
15回目	評価振り返り
準備学習 時間外学習	視聴した内容はスクリショで残すのではなく、各自でノートにまとめておいてください。 普段から動物の関わるニュースや出来事に興味を持つておくこと。 爬虫類・両生類の書籍や飼育雑誌を購入したり、図書館で読んだりしておく、学校だけでなく将来の役に立ちます(任意)。 爬虫類をはじめとした動物のイベント・展示即売会を見学しに行くのもよいです(任意)。
評価方法	定期試験の評価を80%とし、出席率を20%とし、総合して100点に換算する。例：試験100点、出席率50%の場合、点数は90点。
【使用教科書・教材・参考書】 こちらからこの資料を購入してくださいという指定はありません。 参考になる資料は、誠文堂新光社から発行されている「完全飼育シリーズ」、「爬虫類・両生類フォトガイドシリーズ」、「ディスカバリー生き物再発見シリーズ」、エムピージェーから発行されている各種の爬虫類・両生類飼育図鑑などを推奨します。 小学館の図鑑「NEO」シリーズもわかりやすくおすすめです。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	両生・爬虫類研究 (Amphibians and Reptiles)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	川中 豪
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	遠隔授業			曜日・時限	土曜日3時限
【授業の学習内容】 爬虫類および両生類の様々な生態や行動について映像で学ぶとともに、飼育に応用できる技術や知識を習得する。 ※担当教員実務経験：ペットショップ(エキゾチックアニマル、観賞魚)勤務及び観賞魚用品開発メーカーにて開発業務に従事。							
【到達目標】 爬虫類や両生類の管理を任されたときに、学んだ内容を活用し動物にとっての健康的な飼育ができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	飼育管理に必要な器具について1・飼育容器
2回目	飼育管理に必要な器具について2・保温器具
3回目	飼育管理に必要な器具について3・床材
4回目	飼料や栄養管理について1・肉食
5回目	飼料や栄養管理について2・草食
6回目	飼料や栄養管理について3・雑食
7回目	爬虫類がかかる病気とその対策について1
8回目	爬虫類がかかる病気とその対策について2
9回目	両生類がかかる病気とその対策について1
10回目	両生類がかかる病気とその対策について2
11回目	爬虫類両生類以外のエキゾチックアニマルについて
12回目	爬虫類両生類の市場や仕事について1
13回目	爬虫類両生類の市場や仕事について2
14回目	評価
15回目	評価振り返り
準備学習 時間外学習	視聴した内容はスクリショで残すのではなく、各自でノートにまとめておいてください。 普段から動物の関わるニュースや出来事に興味を持っておくこと。 爬虫類・両生類の書籍や飼育雑誌を購入したり、図書館で読んだりしておく、学校だけでなく将来の役に立ちます(任意)。 爬虫類をはじめとした動物のイベント・展示即売会を見学しに行くのもよいです(任意)。
評価方法	定期試験の評価を80%とし、出席率を20%とし、総合して100点に換算する。例：試験100点、出席率50%の場合、点数は90点。
【使用教科書・教材・参考書】 こちらからこの資料を購入してくださいという指定はありません。 参考になる資料は、誠文堂新光社から発行されている「完全飼育シリーズ」、「爬虫類・両生類フォトガイドシリーズ」、「ディスカバリー生き物再発見シリーズ」、エムピージャーから発行されている各種の爬虫類・両生類飼育図鑑などを推奨します。 小学館の図鑑「NEO」シリーズもわかりやすくおすすめです。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	船舶免許対策講座 2級・特殊 (Boat Operator II and Personal Water Craft Operator National Examination Course)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	株式会社ボート免許センター
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日4時限
【授業の学習内容】 広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な、小型船舶に対する知識を学ぶ。 小型船舶操縦士2級・特殊(水上オートバイ)免許取得を目指す。 ※担当教員実務経験:株式会社ボート免許センター。(設立2006年3月24日) 事業内容/一級・二級・二級第一号限定・特殊小型船舶教習所(九小教第5号)・小型船舶操縦免許証更新 ・失効再交付講習機関(操更講第17号・操失講第17号)損害保険代理業務							
【到達目標】 小型船舶操縦士2級・特殊(水上オートバイ)免許取得。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション/取得免許に関して
2回目	学科教本 P13～P42 小型船舶の船長の心得および遵守事項(水上交通の特性、小型船舶の船長の心得)
3回目	学科教本 P43～P59 小型船舶の船長の心得および遵守事項(小型船舶の船長の遵守事項)
4回目	学科教本 P61～P69 交通の方法(海上衝突予防法/基本となる航法)・小テスト①
5回目	学科教本 P70～P84 交通の方法(海上衝突予防法/灯火・形象物・信号、港則法)
6回目	学科教本 P85～P102 交通の方法(海上交通安全法、湖川・特定水域での交通の方法) 運航(操縦の基本)
7回目	学科教本 P103～P116 運航(出入港・係船・錨泊/船体の安定・トリム/狭視界時の航行/曳航)・小テスト②
8回目	学科教本 P117～P132 運航(航海の基礎)
9回目	学科教本 P133～P143 運航(船体・設備・装備品、ロープの取り扱い/発航前の点検)
10回目	学科教本 P144～P164 運航(機関の取り扱い)
11回目	学科教本 P165～P183 運航(気象・海象、荒天時の操縦と避難、事故対策)
12回目	補習・練習問題・小テスト③
13回目	免許試験①
14回目	期末評価及び振り返り(免許試験②)
15回目	免許試験③
準備学習 時間外学習	授業ごとの学科教本の予習・復習を行うこと。 学科試験「過去問題」を使用しての反復学習をすること。
評価方法	定期試験の結果(50%)、小テスト(30%)、授業態度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 学科教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	船舶免許対策講座 1級 (Boat Operator I National Examination Course)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	株式会社ボート免許センター
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日4時限
【授業の学習内容】 広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な、小型船舶に対する知識を学ぶ。 小型船舶操縦士1級免許取得を目指す。 ※担当教員実務経験:株式会社ボート免許センター。(設立2006年3月24日) 事業内容/一級・二級・二級第一号限定・特殊小型船舶教習所(九小教第5号)・小型船舶操縦免許証更新 ・失効再交付講習機関(操更講第17号・操失講第17号)損害保険代理業務							
【到達目標】 小型船舶操縦士1級免許取得。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション
2回目	学科教本 P7～58 上級運航Ⅰ(航海計画/救命設備/通信設備/気象・海象/荒天航法・海難防止)
3回目	学科教本 P59～86 上級運航Ⅱ(機関の保守整備/機関故障時の対処)
4回目	補習・練習問題
5回目	海図①
6回目	海図②
7回目	海図③
8回目	海図④・潮汐表の利用法
9回目	補習・練習問題
10回目	補習・練習問題
11回目	免許試験①
12回目	免許試験②
13回目	期末評価及び振り返り(免許試験③)
14回目	免許試験④
15回目	免許試験⑤
準備学習 時間外学習	授業ごとの学科教本の予習・復習を行うこと。 学科試験「過去問題」を使用しての反復学習をすること。
評価方法	定期試験の結果(70%)、授業態度(30%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 学科教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ダイビング演習 (Scuba Diving)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	高濱 香
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限
【授業の学習内容】							
潜水計画から海況判断、トラブル回避など、ダイビングを安全に楽しむために必要な知識を学科講習で身につけ、海でスキルを身につける。 ※担当教員実務経験:PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表。 オープンウォーターダイバー22年、潜水士22年、ライフセービング13年。							
【到達目標】							
PADIオープン・ウォーター・ダイバーCカード取得							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション／アンケート及び、参加前書類作成
2回目	オープン・ウォーター テキスト第1章
3回目	オープン・ウォーター テキスト第2・第3章
4回目	オープン・ウォーター テキスト第4・第5章
5回目	オープン・ウォーター 模擬テスト
6回目	オープン・ウォーター ライセンス学科試験
7回目	オープン・ウォーター 器材紹介・セッティング紹介
8回目	オープン・ウォーター ダイビング演習①ライセンス取得講習(終日)
9回目	オープン・ウォーター ダイビング演習②ライセンス取得講習(終日)
10回目	オープン・ウォーター ダイビング演習③ライセンス取得講習(終日)
11回目	オープン・ウォーター ダイビング演習④ライセンス取得講習(終日)
12回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑤ライセンス取得講習(終日)
13回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑥ライセンス取得講習(終日)
14回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑦ライセンス取得講習(終日)
15回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑧ライセンス取得講習(終日)
準備学習 時間外学習	水泳200mが泳げる体力をつけておくこと。
評価方法	■学校評価基準 筆記試験 70% スキル評価 30% ■ライセンス取得基準 筆記試験 75%以上(ライセンス学科 取得基準) スキル評価 100%(ライセンス実技 取得基準)
【使用教科書・教材・参考書】	
PADIオープンウォーターテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	潜水士対策講座 (Preparation class Diving Examination)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	高濱 香
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4時限
【授業の学習内容】 潜水士試験に合格する為に、潜水士の教科書を理解して過去問を解いて試験問題に慣れる。 ※担当教員実務経験：PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表。 オープンウォーターダイバー22年、潜水士22年、ライフセービング13年。							
【到達目標】 国家試験「潜水士」取得							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	潜水士概要・全体の説明
2回目	潜水業務
3回目	潜水業務 過去問題①
4回目	潜水業務 過去問題②
5回目	送気、潜降及び浮上
6回目	送気、潜降及び浮上 過去問題
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	高気圧障害
9回目	高気圧障害 過去問題①
10回目	高気圧障害 過去問題②
11回目	関係法令
12回目	関係法令 過去問題①
13回目	関係法令 過去問題②
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	潜水士 過去問題
準備学習 時間外学習	使われている用語や仕組みが難しいので、復習が必要。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 潜水士テキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクトⅠ (Company ProjectⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	各企業実務従事者
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日1、2、3時限
【授業の学習内容】 様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。 ※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案をできるようになる。 ・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。 ・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。 ・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。 ・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業プロジェクトとは① ～企業プロジェクトの意義や目的・目標を明確にする～
2回目	企業プロジェクトとは② ～過去の企業プロジェクトの事例紹介～
3回目	企業プロジェクトの進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	オリエンテーション① ～企業から課題を頂く～
5回目	オリエンテーション② ～質疑応答～
6回目	企画立案① ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い①～
7回目	企画立案② ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い②～
8回目	企画立案③ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い③～
9回目	企画立案④ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い④～
10回目	企画立案⑤ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い⑤～
11回目	現地視察・調査①
12回目	現地視察・調査②
13回目	現地視察・調査③
14回目	現地視察・調査④
15回目	現地視察・調査まとめ
準備学習 時間外学習	・各自(各班)で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表(報告)内容:50% ・課題への参加度・出席:20% ・日々の取り組み30%
【使用教科書・教材・参考書】 現場での施設備品、道具類	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクト I (Company Project I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	各企業実務従事者
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日1、2、3時限
【授業の学習内容】 様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。 ※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案ができるようになる。 ・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。 ・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。 ・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。 ・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プランニング・コミュニケーション①-1
2回目	プランニング・コミュニケーション①-2
3回目	プランニング・コミュニケーション①-3
4回目	プランニング・コミュニケーション①-4
5回目	プランニング・コミュニケーション①-5
6回目	プレゼンテーション①
7回目	プレゼンテーション②質疑応答
8回目	プランニング・コミュニケーション②-1
9回目	プランニング・コミュニケーション②-2
10回目	プランニング・コミュニケーション③-3
11回目	イベント運営・商品化①
12回目	イベント運営・商品化②
13回目	イベント運営・商品化③
14回目	まとめ①
15回目	まとめ発表
準備学習 時間外学習	・各自(各班)で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表(報告)内容:50% ・課題への参加度・出席:20% ・日々の取り組み30%
【使用教科書・教材・参考書】 現場での施設備品、道具類	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	進級課題 (Level Advancement Study)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	豊村 晃丞
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。							
【到達目標】 学習成果(知識・技術)をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	進級課題とは① ～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは② ～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定 ～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習① ～自分(班)のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習② ～途中経過の報告～
7回目	実践学習③ ～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備① ～パワーポイント作成～
9回目	発表準備② ～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③ ～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④ ～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤ ～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り ～各自(班内)で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自(各班)で意見交換を随時行う。 また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容:80% ・課題への参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】 専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	業界研修 (Business internship)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	随時
専攻名	動物看護師専攻(昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部)	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】							
学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。 ※担当教員実務経験:研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】							
・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。 ・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。 ・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。 ・自らの「キャリア」をデザインできる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表(20%) これらを総合的に判断して評価
【使用教科書・教材・参考書】	
キャリアセンターの参考情報	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別講義&見学 (Special Lecture)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

- ・動物業界に必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
- ・動物業界に必要な人間力を理解し、身に付ける。
- ・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
- ・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	金曜日 3・5時限、土曜日 1・2時限
【授業の学習内容】 好きな事について話すことができる。商品のレビューを読み、書くことができる。 平日、週末のアクティビティについて話すことができる。日常のアクティビティについてのレポートを読む、また書くことができる。 道順について尋ねる、また教えることができる。場所についての特徴について読み、書くことができる。 ※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】 よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	個人的な情報をたずねる・説明する表現を学ぶ。Be 動詞を学ぶ、復習する。疑問代名詞[What]の使い方を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く。大文字、ピリオドの使い方を学ぶ。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	「はい」「いいえ」で答える質問における [Is / Are]の使い方を学ぶ。家族について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	年齢、誕生日に関する表現を学ぶ言い直すに関する言葉を学ぶ。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	[it is]の使い方を学ぶ。家具について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	ホームシェアについてのメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	「現在形」陳述文を学ぶ (I, you, we)。好きな事について話す。	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	連絡を取り合う方法について話す。相手の話を聞いていることを示す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	「現在形」疑問文 (yes/no / WH-question)を学ぶ。時間・ルーティンについて話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	日常のアクティビティについてのレポートを読む、書く。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	[There (is, are), (a lot, some no)]の使い方を学ぶ。町にある場所について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	道順について尋ねる、また教える際に使う表現を学ぶ情報を確認する。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	・小テストの正解率にて評価 (前期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE1			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
	(Global Communication)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	金曜日 3・5時限、土曜日 1・2時限
【授業の学習内容】 週末に向けたアウトドア活動の計画を立てることができる。オンラインでの招待状を読み、書くことができる。 過去についての場所や出来事、過去の人について述べるができる。思い出の品についての記事やメールを読む、また書くことができる。 食べた食事について話すことができる。レストランのレビューを読む、また書くことができる。 ※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】 よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	「現在進行形」疑問文を学ぶ旅行について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	最近の出来事についてのブログ記事を読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	[Can / Can't] (能力)を使う陳述文・疑問文を学ぶ。自身のスキルや能力について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	自分の意見を述べる。自分はある仕事の適任者であることを説明する。	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて話す」	オンデマンド	
6回目	[like to, want to, need to, have to]の使い方を学ぶ。使い分けがわかる旅行計画を立てる。	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	旅行ガイドを読む、また場所の説明を書く。	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[be going to] (陳述文)の使い方を学ぶ。週末に向けたアウトドア活動の計画について話す。	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	あることをやらないといけない理由を説明する。	オンデマンド	
10回目	スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画し、発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	「過去形」(was / were)の疑問文を学ぶ。色、記憶について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	思い出の品についての記事やメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	「過去形」の陳述文を練習する。スナック、軽食について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	[so / really] (強調する)の使い方を学ぶ。食べ物・飲み物を注文する。	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	・小テストの正解率にて評価 (後期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE1			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海外実学研修 (Overseas Practical Training)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	現地各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定
【授業の学習内容】 国際教育の一環として、実際に海外での施設見学、特別講義、自由行動を通し国際性を身に付け、グローバル化する現代社会で活躍できる人材育成を目的とする。 ※担当教員実務経験：海外における現地実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・最先端の動物、環境に関わる知識や技術を理解し身に付ける。 ・これからの業界に必要な考え方を理解し身に付ける。 ・世界における日本の立場を理解する。 ・自身のキャリアをデザインする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	訪問国、訪問施設を調べまとめる、班ごとに発表する
2回目	訪問国での施設見学、特別講義
3回目	訪問国での施設見学、特別講義
4回目	訪問国での施設見学、特別講義
5回目	訪問国での施設見学、特別講義
6回目	訪問国での施設見学、特別講義
7回目	訪問国での施設見学、特別講義
8回目	訪問国での施設見学、特別講義
9回目	訪問国での施設見学、特別講義
10回目	訪問国での施設見学、特別講義
11回目	訪問国での施設見学、特別講義
12回目	訪問国での施設見学、特別講義
13回目	訪問国での施設見学、特別講義
14回目	研修ノートのまとめ、レポート作成
15回目	海外実学研修の振り返り、発表、まとめ
準備学習 時間外学習	・【事前学習】訪問国、訪問施設を調べまとめる ・【事後学習】訪問施設を研修ノート及びレポートにまとめる
評価方法	・研修ノート、レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の海外実学研修ノート	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	イベント運営 (Event Management)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各イベント実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

- ・企画立案、運営ができるようになる。
- ・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
- ・接客を知り、実践できるようになる。
- ・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
- ・予算管理を実践し習得する。
- ・スケジュールリングを理解し、実践できる。

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備(50%) ・レポート(50%)
【使用教科書・教材・参考書】	
過去のイベント資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別課外活動 (Club Activities)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各クラブ顧問
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学友会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。							
【到達目標】 ・チームワークを身に付ける。 ・計画性を身に付ける。 ・予算管理を身に付ける。 ・マネジメントを理解し身に付ける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ボランティア活動 (Volunteer Work)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。 ※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。 ・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のボランティア活動報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	資格取得講座 (Seminar for a Qualification)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	豊村 晃丞
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。							
【到達目標】 ・各検定試験、資格試験の合格							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の各検定、資格教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅡ (Carrier planning-Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢作友規
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限
【授業の学習内容】							
将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。							
【到達目標】							
■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。 ■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション 1年間のキャリアプランニングを理解する
2回目	コミュニケーショングループワーク:グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
3回目	コミュニケーショングループワーク:グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
4回目	業界研究 / 成功した先輩たちの事例① コミュニケーショングループワーク:グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
5回目	業界研究 / 成功した先輩たちの事例② コミュニケーショングループワーク:グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
6回目	チームマネジメント/学園祭について①
7回目	チームマネジメント/学園祭について②
8回目	チームマネジメント/学園祭について③
9回目	チームマネジメント/学園祭振り返り
10回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて① インターンシップ・就職活動における姿勢
11回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて② インターンシップ・就職活動における姿勢
12回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて③ インターンシップ・就職活動における姿勢
13回目	キャリアデザイン / 夏季休暇振り返り チームマネジメント / スポーツフェスティバル内容の話し合い(ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う)
14回目	チームマネジメント / スポーツフェスティバル内容の話し合い(ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う)
15回目	チームマネジメント / スポーツフェスティバル内容の話し合い(ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う)
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨む。
評価方法	1. 授業態度 (30%) 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの (50%) 3. 出席 (20%)
【使用教科書・教材・参考書】	
オリジナルテキスト、オリジナルPowerPoint	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅡ (Carrier planning-Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢作友規
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限
【授業の学習内容】							
将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。							
【到達目標】							
■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。 ■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション 後期のキャリアプランニングを理解する
2回目	業界研究/チームマネジメント 研修前の調べ学習①
3回目	業界研究/チームマネジメント 研修前の調べ学習②
4回目	業界研究/チームマネジメント 研修前の調べ学習③ 発表と共有
5回目	業界研究/チームマネジメント 研修前の調べ学習④ 発表と共有
6回目	業界研究/チームマネジメント 研修後の振り返り①
7回目	業界研究/チームマネジメント 研修後の振り返り② 発表と共有
8回目	チームマネジメント / 進級課題制作①、We are ECO②
9回目	チームマネジメント / 進級課題制作②、We are ECO②
10回目	チームマネジメント / 進級課題制作③、We are ECO③
11回目	チームマネジメント / 進級課題制作④、We are ECO④
12回目	チームマネジメント / 進級課題制作⑤、We are ECO⑤
13回目	チームマネジメント / 進級課題制作発表①
14回目	チームマネジメント / 進級課題制作発表②
15回目	1年間振り返り
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨む。
評価方法	1. 授業態度 (30%) 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの (50%) 3. 出席 (20%)
【使用教科書・教材・参考書】	
オリジナルテキスト、オリジナルPowerPoint	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ホスピタリティ (hospitality)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 4or5時限
【授業の学習内容】 ホスピタリティ・マインドとは、「おもてなしの心」とも訳され、ビジネスに携わる上で不可欠なものです。相手に満足してもらうサービスを提供する為に、「相手の立場になって考え行動できる力」を身につけ実践出来るように講義形式・実践形式にて理解を深めます。 ※担当教員実務経験: 専門学校にて、ビジネスマナー、ホスピタリティ、就職講座など幅広く担当している。							
【到達目標】 ①ホスピタリティの理論と実践の両面からホスピタリティを理解し、マインドとスキルを習得することができる。 ②学んだことを生かし、日常生活においてもホスピタリティ・マインドを持って行動することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション : 講義の説明 ホスピタリティ動画を視聴し、サービスとホスピタリティの違いについて理解することができる
2回目	ホスピタリティを実践するための3つのステップを踏まえ基本マナーを身につける(挨拶・お辞儀)
3回目	プロとしての雰囲気作りを習得することができる(服装・身だしなみの重要性)
4回目	プロとしての雰囲気作りを習得することができる(言葉遣い・声の出し方)
5回目	電話対応の基本マナーとビジネス上の定番トークを覚え、信頼を得る電話応対ができる
6回目	電話対応 ロールプレイング
7回目	おもてなしにあたってのマナーについて理解し、現場で実践することができる
8回目	プロとしての雰囲気作りを習得することができる(コミュニケーションが始まる挨拶・笑顔)
9回目	適当な挨拶のデメリットとマナーに合った挨拶のメリットについて理解を深めることができる
10回目	マインド(心構えや気持ち)、知識、行動など振り返り、再確認することができる。
11回目	リッツ・カールトンのホスピタリティについて調べ、感動を与えるサービスについて理解することができる
12回目	自分が体験した感動サービスについて取り上げ、感性を磨くことができる
13回目	評価試験対策
14回目	評価試験
15回目	前期講義の振り返り
準備学習 時間外学習	事前学習では、シラバスを読み講義概要を確認すること。 時間外学習では、ホスピタリティを身につけるために行動すること。相手に対してちょっとした気遣いの積み重ねです。まずは考え行動しましょう。
評価方法	・試験: 80% ・平常点: 20%
【使用教科書・教材・参考書】 【使用参考書】 図解版ホスピタリティの教科書/林田正光 著	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ホスピタリティ (hospitality)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 4or5時限
【授業の学習内容】 前期講義で習得したものをさらにワンランク上の知識やスキルを身につけ、ホスピタリティを拠り所としたよりきめ細かく幅広い実務と教養を学びます。 ※担当教員実務経験：専門学校にて、ビジネスマナー、ホスピタリティ、就職講座など幅広く担当している。							
【到達目標】 ①前期講義で習得したものを更にワンランク上の知識やスキルを身につけることができる。 ②実社会におけるホスピタリティ・マインドの重要性を認識し、社会人として通用する心構えを構築することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション：講義の説明 前期講義の振り返り
2回目	ホスピタリティを実践するための3つのステップを踏まえ「気づき」について理解することができる
3回目	「気づき」に必要な具体的な手法を知り、顧客満足度を上げることができる
4回目	ワンステップ上の挨拶の実践によりパーソナル・サービスに生かすことができる
5回目	気づきのあるコミュニケーション(対応力、傾聴力、褒め上手)でお客様のご要望がわかる
6回目	リピーター、ロイヤルカスタマーを生む対応力について理解することができる
7回目	「心くばり」に必要な手法を知り、お客様や周囲の状況を把握し必要に応じたコミュニケーションを図ることができる
8回目	お客様とのやり取りの中で、ニーズの先読みをし、最適な準備や柔軟な対応をすることができる
9回目	お客様からの要望やクレームに対し、お客様の心理に寄り添ったコミュニケーションを図ることができる
10回目	お客様により良いサービスを提供するために組織のホスピタリティについて理解することができる
11回目	ホスピタリティを実践している企業を取り上げ、経営理念・ビジョンなどお客様や社会に提供している価値について理解することができる【グループワーク】
12回目	ホスピタリティを実践している企業を取り上げ、経営理念・ビジョンなどお客様や社会に提供している価値について理解することができる【発表】
13回目	評価試験対策
14回目	評価試験
15回目	前期講義の振り返り
準備学習 時間外学習	事前学習では、シラバスを読み講義概要を確認すること。 時間外学習では、講義を理解するために講義内容を見直しあいまいな点は質問できるように整理すること。 また、新たな気づきなどをノートにまとめておくこと。
評価方法	・試験:80% ・平常点:20%
【使用教科書・教材・参考書】 【使用参考書】 図解版ホスピタリティの教科書/林田正光 著	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアサポートアップ (Improving Communication Skills)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	加藤亜紀、江口由香
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日・1時限
【授業の学習内容】 就職活動の基本である自己分析と企業研究の必要性を学び、志望動機、自己PRを完成させ、履歴書を自立して作成できるようになります。また発声練習やグループワークを通して、効果的な自己表現を可能にし、自信を持って面接に挑み、結果を手にしていきます。 【実務経験】 就職講座・コミュニケーション講座などの非常勤講師として業務に携わる。							
【到達目標】 ・自己分析(理解)によって、自分の強み、弱みを効果的に伝えられるようになる。 ・履歴書、エントリーシートが自立して書けるようになる。 ・自己分析、企業研究によって、自分の目指す企業のマッチングが可能になり、適切な面接対策ができる。 ・個人面接、集団面接など、様々なケースを想定し、ロールプレイングを通じて、自己表現に自信が付く。 ・小論文の基本的書き方を習得する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション 就職活動において現在地を確認し、ゴール設定ができる
2回目	自分の適性を知る 分析ツールを使って強みの原点を把握できる
3回目	自己分析の基礎①希望業種に内定するために現状を知り、就職活動の全体像を掴むことが出来るようになる
4回目	自己分析の基礎②希望業種に内定するために現状を知り、就職活動の全体像を掴むことが出来るようになる
5回目	企業研究・業界分析の仕方について① グループワークを行い広い視野を養うことができる
6回目	履歴書の書き方 形式を遵守した上で、自分らしい履歴書が書けるようになる。
7回目	面接対策① 面接の全体像が把握できる
8回目	面接対策② 見た目・中身の両方に対する戦略が分かる
9回目	面接対策③ 模擬面接 お互い分析、フィードバックすることで客観的に自分を把握することができる
10回目	WEB面接対策
11回目	適性検査対策
12回目	論理的文章の書き方 作文・小論文 ①
13回目	論理的文章の書き方 作文・小論文 ②
14回目	試験
15回目	総まとめ
準備学習 時間外学習	予習復習をしましょう
評価方法	・試験:80% ・提出物:20%
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	社会人基礎力 (Essential Competencies for the Working Adult)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平田美菜子
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日・1時限
【授業の学習内容】 社会人としての心構えや必要なヒューマンスキル(ビジネスマナー・コミュニケーション)を学び、学生から社会人として意識を変革させ、実践・行動出来るように講義・実践形式にて理解を深めます。 ※担当教員実務経験:20年航空会社でキャビンアテンダントとして従事。退職後、接遇や新入社員研修、企業研修講師、また、キャリアコンサルタントとして就職支援やコンサルタント業務など多岐にわたり担当している。							
【到達目標】 社会人として仕事をスムーズに進めていくための基本となるビジネスマナーやコミュニケーションを身に付け、自律した社会人としてふさわしい振る舞いができるようにする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション／自己紹介／社会人基礎力とは
2回目	社会人としての必要なスキル
3回目	ビジネスマナーの必要性①／第一印象／身だしなみ
4回目	ビジネスマナー②／立ち居振る舞い／空間管理
5回目	ビジネスマナー③／お辞儀・来客対応・名刺交換
6回目	言葉遣いと電話対応の基本演習
7回目	コミュニケーション／聴く力と伝える力を身に付ける
8回目	コミュニケーション演習
9回目	ビジネス文書／メール作成のポイント／情報管理
10回目	仕事の進め方／報告・連絡・相談
11回目	コンプライアンスについて考えよう
12回目	ストレスコントロール力を身に付ける
13回目	総合学習／グループワーク
14回目	評価試験および振り返り
15回目	前期のまとめ
準備学習 時間外学習	学んだことは即実践する。日々の生活から意識を持ち行動するようにしてください。
評価方法	・試験:80% ・平常点:20%
【使用教科書・教材・参考書】 自作プリント 参考教材:社会に出る一歩手前で読む本社会に出たら、最初に読む本／米多比 庸右 著	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物研究 (Aquatic Biology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	淵上 信好
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限
【授業の学習内容】 福岡県内で採集した無脊椎動物生体(実物)を材料として、その生物がなんでその形になっているのか？生き物が織りなす形は、意味があってその形になっているという考え方でスケッチをする。そこから、大まかな分類(グループ分け)や、生息地の条件など基礎的な知識を学ぶ。 また、記録を残す習慣を付けたいので、配布したスケッチブックの講師チェックは評価対象とする。前期は主として河川生物中心で解剖は少なめにする。 ※担当教員実務経験:国土交通省遠賀川河川環境保全モニター(審議会・検討会・現場指導):1995年～現在継続中。 NPO直方川づくりの会:2006年～現在継続中。							
【到達目標】 ①無脊椎動物の大まかな(門・目レベル)分類ができる。 ②生体スケッチによってその形に興味を持てるようになる。 ③採集地データから生息環境がイメージできる。 ④世の中の流れ(水生生物の時事ネタ)に関して、自分の意見が言える。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	①②③河川水生昆虫類 1(カゲロウ・カワゲラ)
2回目	①②③河川水生昆虫類 2(トンボ・その他)
3回目	①②③淡水エビ・カニ類 1 (ヌマエビ類・テナガエビ類)
4回目	①②③淡水エビ・カニ類 2 (サワガニ・モクズガニ) ④時事ネタ 1
5回目	①②③水中カメムシ類 (タイコウチ・オオアメンボ)
6回目	①②③水生甲虫類 (ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシ・ヒメドロムシ)
7回目	■評価試験および振り返り
8回目	①②③園場の三大生きた化石 1 (ホウネンエビ)④時事ネタ 2
9回目	①②③園場の三大生きた化石 2 (カブトエビ・カイエビ) ④時事ネタ 3
10回目	①②③クラゲ 1 (ミズクラゲ・アカクラゲ)
11回目	①②③淡水二枚貝 (シジミ類・ドブカイ)
12回目	①②③淡水巻貝 (タニシ類・カワニナ・スクミリンゴガイ)
13回目	①②③淡水の節足・軟体動物門のまとめ
14回目	■評価試験および振り返り
15回目	ここまでの生物の学生リクエストテーマ⇒希望種を採集しテーマとする
準備学習 時間外学習	参考書:フィールド総合図鑑 川の生物 山海堂 参考図鑑:日本産水生昆虫図説 東海大学出版会 参考図鑑:世界大博物大辞典 別巻2 水生無脊椎動物 平凡社 生物の範囲が広いので本校図書館の書籍・雑誌を乱読のこと。
評価方法	●中間試験 25% ●期末試験 25% ●ノート点 50%
【使用教科書・教材・参考書】 レジュメおよび資料を配布。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物研究 (Aquatic Biology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	淵上 信好
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限
【授業の学習内容】 対象無脊椎動物を淡水産から海水産の割合を多くして、総合的な分類と生息環境および生態系の位置へと導く。 また、水族館の海獣類の餌や人の食糧となる無脊椎動物は、寄生虫・濃縮毒性等、食用安全性に至る実験も実施。 一方、両生類やコケ植物等のAQAペットショップの商品となっている生物も採集可能な範囲で取り上げる。 ※担当教員実務経験:国土交通省遠賀川河川環境保全モニター(審議会・検討会・現場指導):1995年～現在継続中。 NPO直方川づくりの会:2006年～現在継続中。							
【到達目標】 ①自分の興味のある水生生物(2種でよい)について、人が食い付く話ができる。 ②無脊椎動物の大まかな分類ができる。 ③対象生物の生息場所・採集方法・運搬方法が8割程度は分かる。 ④生物種に応じた標本の作り方・危険な薬品等の知識が分かっている。 ⑤授業ノートが習慣になっている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	①イカ・タコ類 1 (基礎編) ●濃度計算(水族館採用試験対策)
2回目	①イカ・タコ類 2 (解剖・雑学・利用) ●濃度計算(水族館採用試験対策)
3回目	①②④クラゲ 2 (展開)
4回目	②③④漁港ロープ付着生物 総合分類 1 (奈多漁港・ロープ付着生物)
5回目	①②④タイドプールの棘皮動物 (ウニ・ヒトデ・ナマコ)
6回目	①両生類 (アカハライモリ・カスミサンショウウオ)
7回目	■評価試験および振り返り
8回目	②③④漁港ロープ付着生物 総合分類 2 (奈多漁港) ●環境数学(水族館採用試験対策)
9回目	①④寄生虫(アニサキス・ニベリン条虫)
10回目	①②③海岸打ち上げ生物 ピンポイント解説
11回目	③苔類
12回目	①④海岸打ち上げ生物 総合分類 (海藻をメインに)
13回目	④福岡県侵略的外来種の講師フィールド調査報告 (コウガイセキショウモ・ウォーターマッシュルーム類)
14回目	■評価試験および振り返り
15回目	①②③④⑤本年度の特筆採集生物のまとめ
準備学習 時間外学習	参考図巻:日本産水生昆虫図説 東海大学出版会 参考書:フィールド総合図鑑 川の生物 山海堂 参考図鑑:世界大博物図鑑 別巻2 水生無脊椎動物 平凡社 その他、生物の範囲が広いので本校図書館の書籍・雑誌を乱読のこと。
評価方法	●中間試験 25% ●期末試験 25% ●ノート 50%
【使用教科書・教材・参考書】 レジュメおよび資料を配布。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	魚類学実験 (Fishe Laboratory)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	洲上 信好
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日4、5時限 or 金曜日4、5時限
【授業の学習内容】 ■生体・鮮魚・標本を用い、五感を常に使う実習。 ■最終形(実験のまとめ)から逆算して準備ができるよう指導。 ■魚類の基礎知識から展開した(各論)板書講義。 ■安全が担保できる状態で、博多埠頭における野外実習。 ■メモする習慣を付けるため、ノートチェックは基本的に毎回実施(評価の50%)。 ※担当教員実務経験:国土交通省遠賀川河川環境保全モニター(審議会・検討会・現場指導):1995年～現在継続中。 NPO直方川づくりの会:2006年～現在継続中。							
【到達目標】 ①魚類検索図鑑を3割程度使いこなすことができる。 ②授業後の片付けの重要性が分かり、作業工程を逆算して考える事ができる。 ③実験や作業で使う道具は、必要に応じて自分で考案・制作する意識を持つ事ができる。 ④目的に応じた解剖の段取りができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	①魚類検索スケッチ中級 その1 (プロポーシオンと部位計測) ③竹ピンセットの作成(金属ピンセットとの用途差異) ⇒2グループ同時進行
2回目	①魚類検索スケッチ中級 その2 (細部スケッチ・計数データ記入) ③竹ピンセットの作成(金属ピンセットとの用途差異) ⇒2グループ同時進行
3回目	②④⑤透明骨格標本 その1(理論・行程・薬品解説) + 「1・2回目」の仕上げ
4回目	②④魚類解剖の基本 その1 (主目的を絞る⇒準備⇒実施⇒修正⇒まとめ⇒片付け) ■⑤透明骨格標本作業継続
5回目	③②④骨格図の模写と魚類の重要な骨摘出(耳石・肩甲骨・烏口骨) ■⑤透明骨格標本作業継続
6回目	①河川地点採集サンプル総合分類河川中上流 その1 (魚類生息環境・出現種一覧表) ■⑤透明骨格標本作業継続
7回目	■評価試験および振り返り + ここまでの中途作業の仕上げ
8回目	②③博多湾・博多埠頭での釣り実習 その1(イベント企画者の立場 + 現場ロープワーク)
9回目	⑤魚類剥製(概説・作業) + ①検索用サンプルの展翅(ホルマリン標本用として)
10回目	②水産食品加工(保存食品の条件⇒水分・塩分・油分・pH・脱酸素)
11回目	②③後期に向けた魚類アート入門(魚拓、毛筆画、アクリルペイント、米粉粘土)
12回目	①河川地点採集サンプル総合分類 2 河口域 (魚類生息環境・出現種一覧表)
13回目	②④大型魚類胃内容分析
14回目	■期末試験 + ここまでの補足作業
15回目	学生希望テーマ授業
準備学習 時間外学習	参考図書:日本産魚類検索 一全種の同定 東海大学出版会 その他、本校図書館の魚類関連図書・雑誌を乱読しておくこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	●中間試験 25% ●期末試験 25% ●ノート点 50%
【使用教科書・教材・参考書】 レジューメおよび資料を配布。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	魚類学実験	必修選択	必修	年次	2	担当教員	淵上 信好
	(Fishe Laboratory)	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日4、5時限 or 金曜日4、5時限
【授業の学習内容】 ■前期同様に採集および購入魚類を用いた実習と板書講義の様式とするが、作業の割合を大きくする。 ■同じ場所での別作業となるので、時間設定、道具の使い回し、人の導線など「段取り力」を指導する。 ■実験・作品制作の作業は、正しい失敗を繰り返しながら最後まで仕上げる事を目標とする。 ■魚類から派生する「モノづくり」は、職場でのイベント等における発想・企画・経費計算に役立てたい。 ■研修・早期就職で授業参加困難な学生は、前倒しで計画を立て作品提出へと指導して行く。 ※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター(審議会・検討会・現場指導)：1995年～現在継続中。 NPO直方川づくりの会：2006年～現在継続中。							
【到達目標】 ①魚類から派生する作業について「知っている」ではなく「やったコトがある」で話することができる。 ②実験等において「段取り力」が一定のレベルに達している。 ③様々な製品を見て「用」「強」「美」の観点で評価できるようになる。 ④この授業を通して様々な視点から魚類を語る事ができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	①②魚類麻醉薬・魚病薬の研究 (市販薬品の検討と個人用自作)
2回目	④果物アート (雨プログラムの組み方) ■米粉粘土アート 継続
3回目	①アクリル加工 (透明骨格標本・剥製ケース・野外観察写真撮影用ケースおよび小型水槽) ■米粉粘土アート 継続
4回目	①透明骨格標本 2 (継続作業のまとめとして)
5回目	①②③塗装の基本知識と実践作業 (水性・油性・漆) ■米粉粘土アート 継続
6回目	①②④秋の釣り大会 in 博多埠頭 (学生企画)
7回目	①④発泡スチロール加工 (多用途)+ 竹素材の魚類ハンドリング用品加工 (小型のタモ網ほか)
8回目	①魚類地点調査サンプル総合分類(1年次の「魚類研究」総まとめ)
9回目	①④ルアー製作 ■米粉粘土アート 継続
10回目	①②④魚類デザインのパンケーキ (食育イベントのバリエーションとして)+ 燻製(キャンプメニューとして) ■ルアー製作 継続
11回目	①②③④魚類注連縄づくり (園場生物環境・薬素材・伝統文化) ■ルアー製作 継続
12回目	①②④UVレジン (義眼・魚類部位を封入したアクセサリ)と剥製
13回目	■作品提出 追い込み (間に合いそうにない学生の方まで協力して作成)
14回目	■作品提出 受付締め切り (早期就職の学生の方まで協力して作成)
15回目	学校備品の修理と教室の大掃除 (感謝をこめて楽しそうに掃除をする)
準備学習 時間外学習	参考図書：日本産魚類検索 一全種の同定― 東海大学出版会 その他、本校図書館の魚類関連図書・雑誌を乱読しておくこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	●作品提出 50% ●ノート点 50%
【使用教科書・教材・参考書】 レジューおよび資料を配布。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平 隼人/田中 侑弥
	(Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4or5時限 & 金曜日2or3時限
【授業の学習内容】							
実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。 ※担当教員実務経験: 平 隼人:サカナヤデザイン代表。アクアリウムデザイナー。 田中侑弥:水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事する。							
【到達目標】							
海水水槽オーバーフローシステム水槽の取り扱い及び管理法を習得する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	各水槽システム取り扱い説明・人工海水の作り方
2回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
3回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
4回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
5回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
6回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
7回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
8回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
9回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
10回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
11回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
12回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
13回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
14回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
15回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要です。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処してください。 水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにしてください。 できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察してください。
評価方法	■授業内評価 80% ■授業出席率 20%
【使用教科書・教材・参考書】	
第一・第二アクア実習室、海水魚水槽	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅱ (Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平 隼人/田中 侑弥
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4or5時限 & 金曜日2or3時限
【授業の学習内容】							
実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。 ※担当教員実務経験: 平 隼人:サカナヤデザイン代表。アクアリウムデザイナー。 田中侑弥:水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事する。							
【到達目標】							
海水水槽オーバーフローシステム水槽の取り扱い及び管理法を習得する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	各水槽システム取り扱い説明・人工海水の作り方
2回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
3回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
4回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
5回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
6回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
7回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
8回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
9回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
10回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
11回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
12回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
13回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
14回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
15回目	①海水魚大水槽(ドライ濾過)②サンゴ水槽(ベルリンシステム)③海水魚集中ウェット濾過水槽1④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグルーブローテーションでメンテナンスを実施 適宜説明
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要です。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処してください。 水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにしてください。 できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察してください。
評価方法	■授業内評価 80% ■授業出席率 20%
【使用教科書・教材・参考書】	
第一・第二アクア実習室、海水魚水槽	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	観賞魚研究Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田中 侑弥
	(Ornamental Fish Ⅱ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限
【授業の学習内容】 海洋生物に関する知識及び、飼育用品・機材・設備を学ぶ。 ※担当教員実務経験:水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事する。							
【到達目標】 海洋性魚類・無脊椎動物・海藻類の飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション、シラバス説明
2回目	水の化学と海洋学
3回目	淡水生物と海洋生物の違い①
4回目	淡水生物と海洋生物の違い②
5回目	アクアリウムにおける海洋生物の種別解説①
6回目	アクアリウムにおける海洋生物の種別解説②
7回目	アクアリウムにおける海洋生物の種別解説③
8回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法①
9回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法②
10回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法③
11回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法④
12回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑤
13回目	期末試験範囲振り返り
14回目	期末試験と振り返り
15回目	期末試験返却、前期まとめ
準備学習 時間外学習	数千種にも及ぶ海水魚の種類とその飼育方法を講義の中だけで全て把握する事は困難である為、常日頃から図鑑・飼育本などを参照し知識の蓄積に努める。 並行して実際に観賞魚店・水族館などを訪れ、生体・飼育器具・飼育方法など生の情報収集行う。 定期的に発行されるアクアリウム専門誌などにも目を通し、最新の情報・新商品・新着魚種などにもアンテナを張る。 実際に自宅で海水魚の飼育が行えればなお良い。
評価方法	■筆記試験:80% ■授業内態度・出席率:20%
【使用教科書・教材・参考書】 自作テキスト、PC	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	観賞魚研究Ⅱ (Ornamental Fish Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田中 侑弥
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限
【授業の学習内容】							
海洋生物に関する知識及び、飼育用品・機材・設備を学ぶ。							
※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事する。							
【到達目標】							
海洋性魚類・無脊椎動物・海藻類の飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑥
2回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑦
3回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑧
4回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑨
5回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑩
6回目	海水水槽の立ち上げと日常管理①
7回目	海水水槽の立ち上げと日常管理②
8回目	海水水槽の立ち上げと日常管理③
9回目	海水水槽の立ち上げと日常管理④
10回目	大型施設の日常管理における注意点
11回目	水族館資料鑑賞
12回目	海水魚の病気・治療方法について
13回目	期末試験範囲振り返り
14回目	期末試験と振り返り
15回目	期末試験返却、前期まとめ
準備学習 時間外学習	数千種にも及ぶ海水魚の種類とその飼育方法を講義の中だけで全て把握する事は困難である為、常日頃から図鑑・飼育本などを参照し知識の蓄積に努める。 並行して実際に観賞魚店・水族館などを訪れ、生体・飼育器具・飼育方法など生の情報収集行う。 定期的に発行されるアクアリウム専門誌などにも目を通し、最新の情報・新商品・新着魚種などにもアンテナを張る。 実際に自宅で海水魚の飼育が行えればなお良い。
評価方法	■筆記試験：80% ■授業内態度・出席率：20%
【使用教科書・教材・参考書】	
自作テキスト、PC	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	魚病学	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高山 清次
	(Fish Pathology)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	土曜日3時限
【授業の学習内容】							
ウイルス性・細菌性・寄生虫病など魚類に多くみられる疾病の予防、治療方法を理解することを目的とする。							
※担当教員:麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】							
ウイルス性・細菌性・寄生虫病などによる魚病の症状の予防、治療方法を実践することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	魚病学の概要を理解できる。
2回目	疾病の発生原因を理解できる。
3回目	疾病を予防する上で必要なことを理解できる。
4回目	水温と魚類の関係について、理解できる。
5回目	急激な温度変化による魚類への影響について理解できる。
6回目	観賞魚の皮膚の構造について理解できる。
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	観賞魚の酸素必要量・酸素供給量について理解できる。
9回目	水槽内での窒素循環・硝化細菌の定着について理解できる。
10回目	pHと水換えの関係性を理解できる。
11回目	観賞魚の疾病の分類について理解できる。
12回目	観賞魚用医薬品の成分について理解できる。
13回目	観賞魚用医薬品による治療方法について理解できる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 学校図書やインターネットを利用する。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物栄養学概論 (Introduction of Nutrition for Animals)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高山 清次
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	土曜日3時限
【授業の学習内容】 動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて学ぶとともに、飼料の種類・給餌方法などを理解することを目的とする。 ※担当教員: 麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】 動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて理解を深め、飼料の種類・給餌方法を適切に判断し、実践することを目的とする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	栄養と栄養素の説明ができる。
2回目	エネルギー栄養素の説明ができる。
3回目	脂肪・タンパク質の働きが理解できる。
4回目	ビタミンの働きが説明できる。
5回目	ビタミンA・D(脂溶性ビタミン)の説明ができる。
6回目	ビタミンB・C群(水溶性ビタミン)、ミネラルの説明ができる。
7回目	ペットフードの歴史が説明できる。
8回目	中間評価及び振り返り
9回目	ペットフードの種類を説明できる。
10回目	ペットフードの目的別分類が実践できる。
11回目	家庭用食材からのペットフードの作り方を理解できる。
12回目	動物にとっての魚肉、乳製品、玉ねぎの害について理解できる。
13回目	動物にとっての玉ねぎ中毒・チョコレート中毒について理解できる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 学校図書やインターネット等を利用する。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	マネジメント・マーケティング (Management and Business Marketing)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中村 元洋
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日 2時限

【授業の学習内容】

マネジメント及びマーケティングの概要と基礎を学ぶ。以下、具体的な内容。

- 1、リスク認識力～冷静に何がリスクか認識でき、回避行動が取れる
- 2、判断力～多様な問題を検討し、ブレずに主体的に最善の判断をし、決断ができる
- 3、課題認識力～組織の課題を自ら認識し達成すべき目標を立てられる
- 4、計画立案力～目標達成のための手段を選択でき、計画を立てられる
- 5、目標管理力～刻々と変化する環境下、計画や手段を修正しながら、粘り強く達成への努力が続けられる
- 6、顧客満足力～顧客など組織外の利害関係者の期待に応えることができる
- 7、調整・交渉力～組織内外の利害関係者に対して交渉・調整ができる
- 8、組織運営力～組織メンバーとコミュニケーションを取り動き部下の能力を結集できる

※担当教員実務経験:2016年3月～企業や社会人資格取得学校において、コーチングやリーダーシップ、心理学を取り入れた研修及び講座、カウンセリングを実施。

【到達目標】

マネジメント及びマーケティングの基礎の習得。具体的には、以下の目標。

- ①あるべき姿と現場のギャップを的確に発見して、組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標を立てる
- ②課題の解決に向けて、周囲の認識を共通のものにし、部署・組織全体と連携した行動により、自身の提案を実現する
- ③顧客ニーズの抽出、顧客満足度を獲得するための知識、技術の習得を通して、社会人基礎力の向上を図る

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション:授業の進め方、自己紹介、なぜ、この授業を行うのか?授業の目的について
2回目	マーケティング基礎知識:マーケティングとは?マーケティングの対象、マネジメントとの関係性について
3回目	マーケティングのポイント:顧客ニーズ・顧客満足度について
4回目	マーケティングの5ステップ:マーケティングの戦略策定、4Pについて
5回目	サービスとリーダーシップ:サービスとリーダーシップの関係性からホスピタリティを考える
6回目	マネジメント基礎知識:マネジメントの役割・マネジメントの社会での必要性・マネジメントとマネージャとリーダーシップとは?
7回目	効果的な意思表示:自己の感情表現タイプをチェックし、効果的な意思表示について学ぶ
8回目	アンガーマネジメント:感情についての理解を深め、アンガーマネジメント法の基礎を学ぶ
9回目	関わり方:「物事の進め方のタイプ」について理解を深める
10回目	チームマネジメント①:グループで関わることについての理解を深める
11回目	チームマネジメント②:会議・ミーティングについて学ぶ
12回目	リーダーシップとスポンサーシップ:信頼関係を構築する関わりについて学ぶ
13回目	全体発表:学んだこと・発見したこと・印象残ったことを通して、今後、どう活かしていくのか?考えをまとめ、発表する
14回目	試験:筆記テストと実技を実施し、これまでの学びの復習と理解度を図る
15回目	まとめ・振り返り
準備学習 時間外学習	時間外学習:提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書熟読。
評価方法	● 試 験 : 70点 ● 課 題 : 30点(課題提出状況及び出来栄)

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材:講師作成資料

参考図書:「サクッとわかるビジネス教養 マネジメント」「アドラー関連書籍」「マーケティング見るだけノート」など

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	マネジメント・マーケティング (Management and Business Marketing)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中村 元洋
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日 2時限

【授業の学習内容】

マネジメント及びマーケティングの概要と基礎を学ぶ。以下、具体的な内容。

- 1、リスク認識力～冷静に何がリスクか認識でき、回避行動が取れる
- 2、判断力～多様な問題を検討し、ブレずに主体的に最善の判断をし、決断ができる
- 3、課題認識力～組織の課題を自ら認識し達成すべき目標を立てられる
- 4、計画立案力～目標達成のための手段を選択でき、計画が立てられる
- 5、目標管理力～刻々と変化する環境下、計画や手段を修正しながら、粘り強く達成への努力が続けられる
- 6、顧客満足力～顧客など組織外の利害関係者の期待に応えることができる
- 7、調整・交渉力～組織内外の利害関係者に対して交渉・調整ができる
- 8、組織運営力～組織メンバーとコミュニケーションを取り動き部下の能力を結集できる

※担当教員実務経験:2016年3月～企業や社会人資格取得学校において、コーチングやリーダーシップ、心理学を取り入れた研修及び講座、カウンセリングを実施。

【到達目標】

マネジメント及びマーケティングの基礎の習得。具体的には、以下の目標。

- ①あるべき姿と現場のギャップを的確に発見して、組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標を立てる
- ②課題の解決に向けて、周囲の認識を共通のものにし、部署・組織全体と連携した行動により、自身の提案を実現する
- ③顧客ニーズの抽出、顧客満足度を獲得するための知識、技術の習得を通して、社会人基礎力の向上を図る

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション:前期で学んだことに関する振り返り、取り組みに関する感想のシェア、質問や事例対応、2年前期の授業の説明
2回目	コーチングとは:コーチングについての基本的な知識
3回目	セルフコーチングとは:自身に行うコーチングについての基礎的知識
4回目	スタッフマネジメント:信頼関係の基本的なプロセスについて理解する
5回目	信頼関係を築くスキル:信頼関係を築くスキルを身につける
6回目	傾聴とは:傾聴の基本的な知識を学習
7回目	効果的な質問①:質問への理解を深め、実践しながら質問の使い分けを身につける
8回目	効果的な質問②:質問への理解を深め、実践しながら質問の使い分けを身につける
9回目	効果的な言葉がけ:言語が与える影響について学ぶ
10回目	時間管理:時間認識の違いについて理解する
11回目	効果的な時間活用法:時間の効果的な使い方について理解を深める
12回目	企業が行う取り組み①:企業が行う取り組みについて紹介
13回目	企業が行う取り組み②:企業が行う取り組みについて紹介
14回目	試験:筆記テストを実施し、これまでの学びの復習と理解度を図る
15回目	まとめ・振り返り
準備学習 時間外学習	時間外学習:提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書熟読。
評価方法	● 試 験 : 70点 ● 課 題 : 30点(課題提出状況及び出来栄)

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材:講師作成資料

参考図書:「サクッとわかるビジネス教養 マネジメント」「アドラー関連書籍」「マーケティング見るだけノート」など

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクトⅡ (Company Project Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	各企業実務従事者
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1、2時限
【授業の学習内容】 様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。 ※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案をできるようになる。 ・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。 ・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。 ・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。 ・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業プロジェクトとは① ～企業プロジェクトの意義や目的・目標を明確にする～
2回目	企業プロジェクトとは② ～過去の企業プロジェクトの事例紹介～
3回目	企業プロジェクトの進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	オリエンテーション① ～企業から課題を頂く～
5回目	オリエンテーション② ～質疑応答～
6回目	企画立案① ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い①～
7回目	企画立案② ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い②～
8回目	企画立案③ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い③～
9回目	企画立案④ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い④～
10回目	企画立案⑤ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い⑤～
11回目	現地視察・調査①
12回目	現地視察・調査②
13回目	現地視察・調査③
14回目	現地視察・調査④
15回目	現地視察・調査まとめ
準備学習 時間外学習	・各自(各班)で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表(報告)内容:50% ・課題への参加度・出席:20% ・日々の取り組み30%
【使用教科書・教材・参考書】 現場での施設備品、道具類	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクトⅡ (Company Project Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	各企業実務従事者
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1、2時限
【授業の学習内容】 様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。 ※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案ができるようになる。 ・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。 ・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。 ・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。 ・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プランニング・コミュニケーション①-1
2回目	プランニング・コミュニケーション①-2
3回目	プランニング・コミュニケーション①-3
4回目	プランニング・コミュニケーション①-4
5回目	プランニング・コミュニケーション①-5
6回目	プレゼンテーション①
7回目	プレゼンテーション②質疑応答
8回目	プランニング・コミュニケーション②-1
9回目	プランニング・コミュニケーション②-2
10回目	プランニング・コミュニケーション③-3
11回目	イベント運営・商品化①
12回目	イベント運営・商品化②
13回目	イベント運営・商品化③
14回目	まとめ①
15回目	まとめ発表
準備学習 時間外学習	・各自(各班)で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表(報告)内容:50% ・課題への参加度・出席:20% ・日々の取り組み30%
【使用教科書・教材・参考書】 現場での施設備品、道具類	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	進級課題 (Level Advancement Study)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢作 友規
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。							
【到達目標】 学習成果(知識・技術)をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	進級課題とは① ～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは② ～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定 ～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習① ～自分(班)のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習② ～途中経過の報告～
7回目	実践学習③ ～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備① ～パワーポイント作成～
9回目	発表準備② ～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③ ～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④ ～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤ ～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り ～各自(班内)で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自(各班)で意見交換を随時行う。 また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容:80% ・課題への参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】 専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	業界研修 (Business internship)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】							
学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。 ※担当教員実務経験:研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】							
・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。 ・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。 ・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。 ・自らの「キャリア」をデザインできる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表(20%) これらを総合的に判断して評価
【使用教科書・教材・参考書】	
キャリアセンターの参考情報	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別講義&見学 (Special Lecture)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

- ・動物業界に必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
- ・動物業界に必要な人間力を理解し、身に付ける。
- ・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
- ・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	月曜日 5時限、水曜日 1時限、土曜日 1・2時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

知人・家族について話することができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。毎日していることについて話することができる。ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。今していることについて話することができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、また書くことができる。招待する、またそれに応えることができる。イベントへの招待を読む、また書くことができる。人生の中での過去のイベントについて話することができる。新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書くことができる。店内で欲しいものについて述べる。新しい商品の説明を読む、またVlog(ビデオブログ)のためのスクリプトを書くことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	所有代名詞(whose)を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなメールを読む、書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	習慣・ルーティンについて質問する。[Wh-question]を練習する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	繰り返しを求める表現を学ぶ。意思疎通に問題があったことを説明する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	「現在進行形」「単純現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	サービス業界の会社へのメッセージを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	将来のことを説明する際に使う「現在進行形」を学ぶ。将来のプランについて話す	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	招待する、招待に応える表現を学ぶ。招待を断る理由を説明する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「プレゼントを選ぶについて」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	「過去形」(陳述文の否定形; 疑問文)を復習する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	[be going to]を復習する買い物に行くことについて会話する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	店内で欲しいものについて述べる。物事の言い方を英語で聞く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (前期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE2			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	月曜日 5時限、水曜日 1時限、土曜日 1・2時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

レストランで頼みたいものについて説明することができる。ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書くことができる。提案をする、また提案をうけることができる。海外生活についてのアドバイスを読む、また書くことができる。意見を尋ねる、また述べる。広告を読む、また写真の説明を書くことができる。将来の予想を立てることができる。アドバイスについてのメールを読む、また書くことができる。したことがあること、ないことについて話すことができる。インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書くことができる。天気について話すことができる。場所についての説明を読むことができる。方法についての説明リストを書くことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	キッチンカーをデザインする「動詞型」を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	[if / when]の使い方を学ぶ。自分の町で何をするかについて話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	「問い返し疑問文」を学ぶ。提案をする、また提案をうける表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「短期旅行のプランを立てる」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	「形容詞の最高級」を学ぶ。写真に写った人について話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	広告を読む、また写真の説明を書く	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[have to]の使い方を学ぶ。職場での危険を回避することについて話す	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	[It feels like (it's like)]を使い、健康問題について話す;健康問題についてアドレスをもらう	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「リアリティ番組を計画し、発表する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	ソーシャルメディア(ネット)生まれの動詞を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	[be like]を使い、天気について話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	道を聞く、道順を教える際に使う表現を学ぶ。言い改める際に使う表現を学ぶ、復習する	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (後期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE2			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	イベント運営 (Event Management)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各イベント実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。 企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。 ※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・企画立案、運営ができるようになる。 ・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。 ・接客を知り、実践できるようになる。 ・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。 ・予算管理を実践し習得する。 ・スケジュールリングを理解し、実践できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備(50%) ・レポート(50%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のイベント資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別課外活動 (Club Activities)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各クラブ顧問
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学友会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。							
【到達目標】 ・チームワークを身に付ける。 ・計画性を身に付ける。 ・予算管理を身に付ける。 ・マネジメントを理解し身に付ける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ボランティア活動 (Volunteer Work)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。 ※担当教員:各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。 ・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のボランティア活動報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	資格取得講座 (Seminar for a Qualification)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	矢作 友規
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。							
【到達目標】 ・各検定試験、資格試験の合格							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の各検定、資格教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅢ (Carrier planning-Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	熊谷 亮太郎
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
	専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業		曜日・時限	月曜日4時限
【授業の学習内容】 将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、身構え・気構え・心構えなどを発揮出来る様になる。 ※担当教員実務経験：							
【到達目標】 ■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。 ■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	キャリアデザイン / オリエンテーション、自己分析
2回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ①
3回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ② 社会人基礎力/社会人になる前の基礎知識①
4回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ③ 社会人基礎力/社会人になる前の基礎知識②
5回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ④ 社会人基礎力/社会人になる前の基礎知識③
6回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ⑤ チームマネジメント/学園祭について①
7回目	キャリアデザイン / 合同企業説明会に向けて チームマネジメント/学園祭について②
8回目	キャリアデザイン / 合同企業説明会振り返り チームマネジメント/学園祭について③
9回目	業界研究 / 研修後振り返り
10回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて① インターンシップ・就職活動における姿勢①
11回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて② インターンシップ・就職活動における姿勢②
12回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて③ インターンシップ・就職活動における姿勢③
13回目	キャリアデザイン / 夏季休暇振り返り 活動報告(インターンシップ・就職活動情報共有) スポーツフェスタについて①
14回目	チームマネジメント / スポーツフェスタイベント内容の話し合い(ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う) スポーツフェスタについて②
15回目	キャリアデザイン / 前期振り返り 就職活動状況の確認・活動方針の調整 スポーツフェスタについて③
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨む
評価方法	1. 授業態度 (30%) 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの (50%) 3. 出席 (20%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・新社会人の基礎力109(滋慶出版)、オリジナルPowerPoint	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅢ (Carrier planning-Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	熊谷 亮太郎
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日4時限
【授業の学習内容】							
将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。							
【到達目標】							
■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。 ■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	キャリアデザイン / 就職活動の現状確認と今後の予定
2回目	キャリアデザイン / 就職活動対策①
3回目	キャリアデザイン / 就職活動対策②
4回目	キャリアデザイン / 就職活動対策③
5回目	キャリアデザイン / 就職活動対策④
6回目	チームマネジメント / 卒業課題制作①、We are ECO①
7回目	チームマネジメント / 卒業課題制作②、We are ECO②
8回目	チームマネジメント / 卒業課題制作③、We are ECO③
9回目	チームマネジメント / 卒業課題制作④、We are ECO④
10回目	チームマネジメント / 卒業課題制作⑤、We are ECO⑤
11回目	チームマネジメント / 卒業課題発表:評価・振り返り①、We are ECO⑥
12回目	チームマネジメント / 卒業課題発表:評価・振り返り②、We are ECO⑦
13回目	セルフマネジメント / 2024年振り返り
14回目	セルフマネジメント / 3年間振り返り①
15回目	3年間振り返り②
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨む。
評価方法	1. 授業態度 (30%) 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの (50%) 3. 出席 (20%)
【使用教科書・教材・参考書】	
・新社会人の基礎力109(滋慶出版)、オリジナルPowerPoint	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	演出効果基礎 (General Statements on production effects)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	甲斐 和幸
専攻名	水族館・アクアリスト 専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日5時限
【授業の学習内容】 映像、音響、照明の基礎を学び空間プロデュースができることを門的とする ※担当教員実務経験:水族館マリンワールドのリニューアルからの映像音響システムの構築管理、水族館うみたまごのオープン時映像音響コンサルティングなどに携わる。							
【到達目標】 映像、音響、照明の基礎知識の習得							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	映像、音響、照明とはいったいどういう役割なのか
2回目	音響の効果、映像の効果について、音響の基礎構成機器
3回目	映像の表示方法と種類
4回目	人が集まるところに見る映像音響の表現方法
5回目	館内音響とサイネージについて
6回目	大型映像の特性と効果、双方向演出のやり方と事例
7回目	福岡市青少年科学館見学（いろいろな映像演出を学ぼう） 映像の効果とその種類について体験学習
8回目	福岡市青少年科学館見学（いろいろな映像演出を学ぼう） 映像の効果とその種類について体験学習
9回目	福岡市青少年科学館見学（いろいろな映像演出を学ぼう） 映像の効果とその種類について体験学習
10回目	見学後解説とレポート
11回目	展示会事前学習、機材の種類と効用について
12回目	九州放送機器展 いろいろな機材を知ること(映像、音響、照明など)
13回目	九州放送機器展 いろいろな機材を知ること(映像、音響、照明など)
14回目	九州放送機器展 いろいろな機材を知ること(映像、音響、照明など)
15回目	機器展の解説と前期まとめ
準備学習 時間外学習	あらゆる施設での照明、映像の使われ方に気を付けながら行動
評価方法	授業態度(50%)、知識習得度(50%)授業時の設問に対する回答および課題にて理解度
【使用教科書・教材・参考書】 事例写真等、実技演習	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	演出効果基礎 (General Statements on production effects)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	甲斐 和幸
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト 専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日5時限
【授業の学習内容】 映像、音響、照明の基礎を学び空間プロデュースができることを門的とする ※担当教員実務経験:水族館マリンワールドのリニューアルからの映像音響システムの構築管理、水族館うみたまごのオープン時映像音響コンサルティングなどに携わる。							
【到達目標】 習得した基礎知識をもとに転じ等においてより効果的な演出を企画立案できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	水族館の建物の構造特性と音響、照明、映像
2回目	ショーや展示における音響、照明、映像の役割
3回目	館内音響について PAとは?
4回目	マイクの種類と特性、周波数について
5回目	ミキサーとはどういう役割か
6回目	アンプの種類と役割、スピーカーの特性と機能
7回目	使ってみよう、マイク、アンプ、ミキサーをつないで音が出るように
8回目	マリンワールド見学事前学習 課題あり
9回目	マリンワールド見学 実際の展示やショーの中で映像音響がどのように使われているか見学
10回目	マリンワールド見学 実際の展示やショーの中で映像音響がどのように使われているか見学
11回目	マリンワールド見学 実際の展示やショーの中で映像音響がどのように使われているか見学
12回目	上記解説と課題解説
13回目	撮影の方法と構図理論 水槽撮影
14回目	動画編集とライブ配信、著作権について
15回目	後期まとめ
準備学習 時間外学習	日常において、音響がどういう効果を持っているかを意識して行動
評価方法	授業態度(50%)、知識習得度(50%)授業時の設問に対する回答および課題にて理解度
【使用教科書・教材・参考書】 事例写真、現場見学等	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	デジタルクリエイト (Utilizing Digital Technology)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	岩永 晃延
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日 5時限
【授業の学習内容】 1. 生き物たちの写真及び動画の撮り方 2. 動画編集について ※担当教員実務経験:株式会社ラック(婚礼前撮り):2018年～2020年 独立(屋号名SwagPhoto):2020年～現在継続中							
【到達目標】 生き物たちの魅力を撮影し、思い通りの動画作成ができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	専門用語解説①
2回目	専門用語解説②
3回目	専門用語解説③
4回目	編集機能の解説①
5回目	編集機能の解説②
6回目	写真・動画の撮り方①
7回目	写真・動画の撮り方②
8回目	撮り方の実演①
9回目	撮り方の実演②
10回目	素材の選別
11回目	素材にする写真の編集
12回目	素材にする動画の準備
13回目	動画作成実演①
14回目	動画作成実演②
15回目	前期振り返り・まとめ
準備学習 時間外学習	生き物たちの魅力を見つけ、どうしても他人に伝わるか日頃から意識すること。
評価方法	授業態度:50%、知識習得度:50%
【使用教科書・教材・参考書】 無料動画編集アプリ	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	デジタルクリエイト (Utilizing Digital Technology)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	岩永 晃延
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日 5時限
【授業の学習内容】 1. 生き物たちの写真及び動画の撮り方 2. 動画編集について ※担当教員実務経験:株式会社ラック(婚礼前撮り):2018年～2020年 独立(屋号名SwagPhoto):2020年～現在継続中							
【到達目標】 生き物たちの魅力を撮影し、思い通りの動画作成ができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	著作権の注意事項・フリー音源の探し方
2回目	動画作成実演④
3回目	サムネイルの作り方
4回目	SNSの活用術
5回目	人気動画と制作したものを比べる
6回目	卒業制作①
7回目	卒業制作②
8回目	卒業制作③
9回目	卒業制作④
10回目	卒業制作⑤
11回目	実際に投稿してみる
12回目	ネットリテラシーについて
13回目	投稿した動画への反応を見る
14回目	評価①
15回目	評価②
準備学習 時間外学習	時間外学習:提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書熟読。
評価方法	● 試 験 : 70点 ● 課 題 : 30点(課題提出状況及び出来栄)
【使用教科書・教材・参考書】 使用教材:講師作成資料 参考図書:「サクッとわかるビジネス教養 マネジメント」「アドラー関連書籍」「マーケティング見るだけノート」など	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物関連法規 (Animal Related Laws and Regulations)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	井田 竜馬
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	遠隔授業			曜日・時限	土曜日1時限
【授業の学習内容】 野生動物や家庭動物を中心として、飼い主を含む人と動物が関わる法律について理解する。 ※担当教員実務経験：行政書士として人と動物に関する各種法律手続きなどに現在まで26年関わる。また並行して愛玩動物動物看護師、狩猟者免許を所持し狩猟を行う。							
【到達目標】 ・外来生物法やワシントン条約など、野生動物に関わる法律について理解できるようになる。 ・狂犬病予防法や動物愛護法などの概要について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み
2回目	外来生物法(1) 外来種と外来生物、法律の概要、
3回目	外来生物法(2)特定外来生物、未判定外来生物、罰則など
4回目	ワシントン条約(1) 概要、レッドリストとの違い、留保など
5回目	ワシントン条約(2) 附属書Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの概要
6回目	種の保存法(1)法律の概要、国際希少野生動植物種
7回目	種の保存法(2)国内希少野生動植物種
8回目	動物愛護法(1)法律の概要、飼い主の義務など
9回目	動物愛護法(2)動物取扱業など
10回目	動物愛護法(3)特定動物、動物虐待に対する罰則など
11回目	動物が亡くなったとき
12回目	漁業法など
13回目	水産資源保護法など
14回目	前期学習内容の総括及び評価試験
15回目	前期学習内容の振り返り
準備学習 時間外学習	授業終了後、質問があれば質問を行う。 動物に関するニュースに関心を持ち、Webや図書、新聞等を見ておく
評価方法	定期試験の結果(100%)で評価する。 評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～59点をC、59点以下をD評価とする。 ただしA、B、およびCを合格とし、Dを不合格とする。
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	SDGs (Sustainable Development Goals)	必修 選 択	必修	年 次	3	担当教員	一般社団法人日本SDGs協会 三浦徹志
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	木曜日 2時限
【授業の学習内容】							
エス・ディー・ジーズ(SDGs)は、私たちが地球上で生きていくための課題、たくさんのハードルがあります。世界人口(80億人)と穀物・肉類の需給、資源の確保、気象など一国では解決できません。前期はSDGsの目標と各国の様子、後期はSDGsの活動(民間のSDGs経営)を調べましょう。安全に生命を維持するためには住む場所、健康、働ける公正な経済社会が必要。言葉や法律、科学の学習も必須。世界の協力が大切です(国際法、IMFなどの国際機関)。自然環境、湿地や湖沼・森林・熱帯雨林・農地・海洋などを大事にし、熱や水の安定した循環と生物多様性が土台です。温室効果ガス、廃プラ、地震や山火事等の災害、また国際紛争、エネルギー・食糧価格、貧困・飢餓など社会的弱者への対策も、多くの脆弱さ(ぜいじやくさ;もろさ)を乗り越えるために193の国々が(国連で)17個の目標を宣言・約束しました。それがSDGs「誰一人取り残さない持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」。授業では文明を3千年遡って考えましょう。厩を作り農業や産業を興しました。一方大量消費、市場取引による富のかたよりの大きくなりました。 ※担当教員実務経験:大学、日本SDGs協会等で若者や社会人のSDGs活動の支援に従事							
【到達目標】							
①SDGsのねらいと行動・アクション、方法を理解する。「国づくり、制度づくり、経済の回転」に興味を持つ。国際会議、国際法「海洋法条約」や「森林原則(UNCED)」「ラムサール条約」「ワシントン条約」などを知る。日本政府が持続可能な社会を目指して《骨太の方針》に掲げるSDGs計画「脱炭素社会の実現。Scope1,2,3」「自然環境・動物保護」「エネルギー基本政策」「人材育成・子育て・若者支援」「食糧安保」など重点政策をチェックし進路にも役立てましょう。 ②世界は自然、社会、経済という3つの側面からとらえられることを実感する。自然を土台に共同体社会、街や制度・ルールができ、安全に経営し、安心して働き、暮らせることを考えましょう。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	シラバスの説明。基本解説:SDGsの成り立ちと目的。取り組み方(SDGsコンパス、バックキャストの方法)を紹介。
2回目	歴史とSDGs:博多湾、板付遺跡等から学ぶ3千年前の古代文明と今日までの人間の暮らし。太陽を中心とした厩と農耕。世界の文明
3回目	生活三面とSDGs:「環境(太陽、水、穀物、土と生き物)」「社会(国家と地方、制度、納税、サービス)」「経済(営業の自由、労働、生産と消費)」
4回目	〔校外演習:博多湾見学・調査〕 九州の文化とSDGs:歴史と役割。自然環境・立地、海の状態。開かれた港湾と交通、都市の発達
5回目	①博多湾調査で得た知見・情報の整理②インターネットで統計データ・数値を収集。貨物、旅客航路・運輸、漁港、観光事業実績
6回目	①博多湾・板付遺跡の小レポート作成:分かったこと、気づいたこと。②レポートの書き方:サンプル指導。項目、記録、章立て、考察
7回目	〈中間テスト〉 レポート完成、発表、提出。〈九州の歴史、地形、交流、サステナブルな文明に触れる〉
8回目	世界とSDGs: 世界の国々の比較(データランキング)文化、経済規模。GDP、人口、石油埋蔵量、貿易量、ジェンダーギャップ等
9回目	世界の国々 ①アフリカ:エジプト共和国、南アフリカ共和国、ガーナ共和国、コートジボワール、スーダン 産業、歴史、都市、政治、文化
10回目	②アフリカ:ケニア共和国、エチオピア連邦、中央アフリカ共和国、ルワンダ共和国、コンゴ共和国
11回目	SDGsゴールの学習:G1.貧困をなくそう G2.飢餓ゼロ:食料安全保障・農業促進 G3.すべての人に健康と福祉を
12回目	③中東(西アジア):シリア共和国、イスラエル国、パレスチナ自治政府、サウジアラビア王国、イラク王国、イラン・イスラーム共和国、アフガニスタン共和国
13回目	④アジア・オセアニア・南アメリカ:フィリピン等、オーストラリア、パペーヌイ共和国、コロンビア、チリ、アルゼンチン、パラグアイ共和国、ブラジル共和国。パナマ、ハイチ
14回目	期末テスト 8-13回で得た知識をもとにレポートを作成する。(その国の問題点。要点の整理と気づき、意見を述べる)
15回目	まとめ レポート提出。学習内容から関心・興味を持ったこと、得た知識、現実の世の中を振り返る。ポイントと理解。
準備学習 時間外学習	授業で出される課題の予習復習
評価方法	筆記試験(レポート):60% 実技試験(授業中の調べ学習、テキストの要点把握と発表の工夫、努力):20% 授業態度(積極性、聴く態度、他の受講生への協力など):20%
【使用教材・参考書】 「60分でわかる!SDGs超入門」ハウト 著 機能聡子・佐藤寛監修 技術評論社刊、「世界の国々」朝日新聞出版編著、「これでわかる!SDGs」(株)大創産業編集発行 「地球環境問題がよくわかる本」浦野紘平他著オーム社	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	SDGs (Sustainable Development Goals)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	一般社団法人日本SDGs協会 三浦徹志
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	木曜日 2時限
【授業の学習内容】							
後期は、SDGsのビジネスチャンス(機会)や具体的な活動例をみていき、実践を考えましょう。2015年国連決議「2030アジェンダ」には、人権や持続的経済成長について述べられています。が、実際にSDGsを行うのは営利企業や学校、病院、自治体など公益的セクター、または家庭や個人です。これらが長期的な視点で、収益を求めながらも同時に社会的課題を事業に取り入れ、環境負荷(Co2排出など)を減らす工夫をしたり、働き方を明るくフェアにする努力をすることでSDGsの各目標に近づこうとします。また経済産業省など国の政策(EVへのグリーン補助金等)のチェックなどが必要です。SDGsは「人は生まれながらにして人権をもち、平等に幸福を追求する権利を付与されている」という考え方に立って「将来の世代へ続く豊かさ、低炭素社会の適度な経済成長」を残します。具体例として地域再生や町おこし、産業のゼロカーボン活動の事例等を調べましょう。長期的な経済成長を目指すサステナブル経営と資本市場の仕組み(お金の出資、ESG投資、コーポレートガバナンス、責任投資原則PRIなど)にも触れましょう。 ※担当教員実務経験: 日本SDGs協会理事、元大阪経済大学経営学部教授							
【到達目標】							
学んだSDGsの知識、理解をノートにまとめ、整理し、自身のSDGs計画として発表できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	予定説明 国連2030アジェンダとSDGs ゴール8 経済成長と働きがい。事例:F県M製作所 地元材料でチョコレート製造
2回目	経済とSDGs: 長期的成長の経営 PRI責任投資原則、ESG投資 G9 産業育成・技術イノベーション 石川県K工業 中古エンジン再生
3回目	経済とSDGs: G9 産業育成・技術イノベーション サプライチェーン全体の脱Co2排出 例:F協同組合、A金属加工のCo2見える化
4回目	経済とSDGs: G 17.パートナーシップ 例:沖縄県K協同組合 離島の産業振興、過疎防止、三重県I町野遊びプロジェクト
5回目	経営とSDGs: G 17.パートナーシップ 例:徳島県A株式会社 空き家のサテライトオフィス誘致
6回目	経営とSDGs: G4. 質の高い教育確保・生涯学習 例:大阪府Y福祉法人 アート教育による社会参加
7回目	小レポート作成 前半のSDG経営の例から得たことをまとめる。グループ討議。経済のゴール(1, 2, 8, 9, 17)の確認
8回目	後期後半の研究課題について <u>最終レポートの「わたしのSDGs経営提案」を準備</u> 。教育、人権、平和と公正な制度のゴール(4, 5, 16)などを確認
9回目	企業経営とSDGs: 5.ジェンダー平等の達成・女性と女兒の能力強化、16.持続可能な開発のための平和促進、法制度、コンプライアンス・エクスプレイン
10回目	SDGs経営: コーポレートガバナンスコード; 短期利益から長期利益へ。競争と市場評価。CSR(社会的責任) CSV(経済・社会の共通価値創造)
11回目	国際協定とSDGs: ESG投資、環境省GHGプラットフォーム COP(コッパ)21・IPCC(気候変動枠組) UNDP(国連開発機構) CDP(英国評価)
12回目	研究レポート作成 各自ワーク、PCで情報整理、まとめ。グループコミュニケーション。
13回目	レポート作成 各自ワーク、PCで情報整理、まとめ。プレゼンテーションの練習、ほかの人とコミュニケーションする。
14回目	期末テスト 研究レポート完成、質疑、意見交換 できた人はレポート提出
15回目	後期まとめ 発表 レポート提出
準備学習 時間外学習	授業で出される課題の予習復習
評価方法	筆記試験(レポート)60% 実技試験(授業中の調べ学習、テキストの要点把握と発表の工夫、努力)20% 授業態度(積極性、聴く態度、他の受講生への協力など)20%
【使用教材・参考書】	
「国際連合の基礎知識」 国際連合広報局 関西学院大学出版会、「FACT FULNESS」ハンス・ロスリング 日経BP、「カーボンニュートラルをめぐる世界の潮流 政策・マネー、コーポレートガバナンス」白井さゆり 文真堂、「図解でわかるカーボンリサイクル」エネルギー総合工学研究所 技評社、「SDGs思考」田瀬和夫 impress、「責任ある投資」水口 剛 岩波書店、「地球環境問題がよくわかる本」浦野紘平他 オーム社	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ビオトープ概論 (Introduction to the Biotope)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	北九州市響灘ビオトープ (オムニバス形式)
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3時限
【授業の学習内容】							
ネイチャーポジティブや教育の場として活用されるビオトープの様々な事例を学び、説明できる。 自然や生物の循環、仕組みなどの生態学的知見、生物調査方法、ビオトープの計画や管理手法、保全を学び、説明できる。 また自然環境保全活動において欠かせない関連法規、普及啓発・広報に不可欠なネイチャーガイド・イベントの企画や情報発信のやり方も学び、説明できる。 なお、当授業は、屋外における演習を含むため、天候等による日程変更の可能性がある。 ※担当教員実務経験：北九州市響灘ビオトープ(北九州市)における指定管理、ひびきの北公園(北九州市)における住民参加の生物保全、宮ノ陣クリーンセンター(久留米市)におけるビオトープ基本計画と管理 等							
【到達目標】							
さまざまなビオトープタイプでも生態学的観点から自然環境を捉える能力、調査、ビオトープの計画や施工管理、生物多様性の保全に貢献する人材になる。 また他業種でも力になるインタープリテーション能力、イベントの企画や広報についても学び就職活動への自信をつける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	講師自己紹介・学生の目指す夢や何を学びたいのか発表を聞き、今後の授業予定を説明する。
2回目	ビオトープの存在意義と生物多様性、生態系サービスについて理解し、説明できるようになる。
3回目	生物多様性の4つの危機について理解し、説明できるようになる。
4回目	ビオトープ管理に必要な生態学的知識(ダイヤモンドの6原則、コリドー、環境収容力、遷移、攪乱等)を身に付ける。
5回目	生物の調査手法について学習し、フィールド実習で活かせるようにする。
6回目	1回目 フィールド実習(響灘ビオトープ) 県内のビオトープを見学し、保全手法を学ぶ。また湿地生物の調査手法を体験し身に付ける。
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	前回のフィールド実習で見られた生き物を調べた結果を発表してもらい、種の同定能力を身に付ける。
11回目	2回目 フィールド実習(アクロス福岡ステップガーデン) 人工物(建築物)におけるビオトープについて学びを深める
12回目	
13回目	前期授業のまとめ
14回目	前期評価試験
15回目	夏休みの調査課題について
準備学習 時間外学習	「改訂版 ビオトープ管理士資格試験公式テキスト」を読み、他の授業の実習地である国営海の中道海浜公園などのビオトープに当てはまる場所の取り組みを調べる、または観察する。
評価方法	授業態度 40% 筆記試験 60%
【使用教科書・教材・参考書】	
「改訂版 ビオトープ管理士資格試験公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター 「自宅で湿地帯ビオトープ！生物多様性を守る水辺づくり」大和書房	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ビオトープ概論	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	北九州市響灘ビオトープ (オムニバス形式)
	(Introduction to the Biotope)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3時限
【授業の学習内容】							
ネイチャーポジティブや教育の場として活用されるビオトープの様々な事例を学び、説明できる。 自然や生物の循環、仕組みなどの生態学的知見、生物調査方法、ビオトープの計画や管理手法、保全を学び、説明できる。 また自然環境保全活動において欠かせない関連法規、普及啓発・広報に不可欠なネイチャーガイド・イベントの企画や情報発信のやり方も学び、説明できる。 なお、当授業は、屋外における演習を含むため、天候等による日程変更の可能性がある。 ※担当教員実務経験：北九州市響灘ビオトープ(北九州市)における指定管理、ひびきの北公園(北九州市)における住民参加の生物保全、宮ノ陣クリーンセンター(久留米市)におけるビオトープ基本計画と管理 等							
【到達目標】							
さまざまなビオトープタイプでも生態学的観点から自然環境を捉える能力、調査、ビオトープの計画や施工管理、生物多様性の保全に貢献する人材になる。 また他業種でも力になるインタプリテーション能力、イベントの企画や広報についても学び就職活動への自信をつける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	夏休み調査課題プレゼンテーション
2回目	効果的な情報発信について学ぶ。
3回目	ネイチャーポジティブ、グリーンインフラについて学ぶ。
4回目	ワイズユース(保全と活用)や自然を活用した社会教育について学ぶ。
5回目	野外活動におけるリスクマネジメントについて理解する。
6回目	1回目 フィールド実習(河川) 河川生物の調査手法を体験し身に付ける。
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	浅海域の生態的特性や保全事例について学ぶ。
11回目	解説技法について学ぶ。
12回目	今までの授業中に学んだことでプレゼンテーション
13回目	後期授業のまとめ
14回目	後期評価試験
15回目	前期最初に聴いた目指す夢が変わったか改めてヒアリング
準備学習 時間外学習	「改訂版 ビオトープ管理士資格試験公式テキスト」を読み、他の授業の実習地である国営海の中道海浜公園などのビオトープに当てはまる場所の取り組みを調べる、または観察する。
評価方法	授業態度 40% 筆記試験 60%
【使用教科書・教材・参考書】	
「改訂版 ビオトープ管理士資格試験公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター 「自宅で湿地帯ビオトープ！生物多様性を守る水辺づくり」大和書房	

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅲ (Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅲ)	必修 選択	必修	年 次	3	担当教員	田中 侑弥/永富 敦也
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4・5時限 & 水曜日2・3時限
【授業の学習内容】 2年間で学んだ生物の様々な管理システム及びメンテナンス技術を生かし、校外での水槽設置(企画・営業・維持管理)を行う。 ※担当教員実務経験: 田中侑弥:水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事する。 永富敦也:水景アトリエ代表。アクアリウムデザイナー。							
【到達目標】 ①プレゼンを用いた営業技術を身に付ける。 ②相手の要望に合わせて水槽の企画・レイアウト・維持管理ができる。 ③プロ意識を持った水槽のメンテナンスができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション、シラバス説明、班分け
2回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
3回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
4回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
5回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
6回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
7回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
8回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
9回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
10回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
11回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
12回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
13回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
14回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
15回目	水槽企画案プレゼンテーション作成・実演・営業、機材の選定及び発注書の作製、校内での試験運転①
準備学習 時間外学習	常日頃から実習室内の水槽設備をよく観察し、メンテナンスを行う。異常を発見した際は速やかに対処すること。 可能な限りショップや水族館等の見学を行ない、設備・生体・レイアウトをよく観察すること。
評価方法	■授業内評価:80% ■授業出席率:20%
【使用教科書・教材・参考書】 第一・第二アクア実習室水槽	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物飼育管理Ⅲ (Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅲ)	必修 選 択	必修	年 次	3	担当教員	田中 侑弥/永富 敦也
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4・5時限 & 水曜日2・3時限
【授業の学習内容】							
2年間で学んだ生物の様々な管理システム及びメンテナンス技術を生かし、校外での水槽設置(企画・営業・維持管理)を行う。							
※担当教員実務経験: 田中侑弥:水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事する。 永富敦也:水景アトリエ代表。アクアリウムデザイナー。							
【到達目標】							
①プレゼンを用いた営業技術を身に付ける。 ②相手の要望に合わせて水槽の企画・レイアウト・維持管理ができる。 ③プロ意識を持った水槽のメンテナンスができる。							
授 業 計 画 ・ 内 容							
1回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業①						
2回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業②						
3回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業③						
4回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業④						
5回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業⑤						
6回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業⑥						
7回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業⑦						
8回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業⑧						
9回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業⑨						
10回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業⑩						
11回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業⑪						
12回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業⑫						
13回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業⑬						
14回目	現地での水槽立ち上げ・メンテナンス作業⑭						
15回目	水槽リセット・撤去、1年間の振り返り						
準備学習 時間外学習	常日頃から実習室内の水槽設備をよく観察し、メンテナンスを行う。異常を発見した際は速やかに対処すること。 可能な限りショップや水族館等の見学を行ない、設備・生体・レイアウトをよく観察すること。						
評価方法	■授業内評価:80% ■授業出席率:20%						
【使用教科書・教材・参考書】							
第一・第二アクア実習室水槽							

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	魚類繁殖生理学 (Reproductive physiology in Fish)	必修 選択	必修	年 次	3	担当教員	高山 清次
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	遠隔授業			曜日・時限	土曜日2時限
【授業の学習内容】							
魚類の繁殖系の器官の形態と機能について学ぶとともに、生殖器官の生理学や繁殖行動、人工繁殖法などを理解することを目的としている。 ※担当教員:麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】							
魚類の繁殖生理学について理解を深め、飼育環境に必要なことを学びとる力を学び、繁殖させたい魚の繁殖を実現できるための考え方やスキルを学び、実践することを目的としている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	魚類の生殖器官を理解できる。
2回目	魚類の生殖腺の発達(雌性性)を理解できる。
3回目	魚類の生殖腺の発達(生殖腺の発生)を理解できる。
4回目	魚類の生殖腺の発達(生殖腺の性分化)を理解できる。
5回目	魚類の生殖腺の成熟過程を理解できる。
6回目	中間テスト
7回目	魚類の生殖腺の成熟過程(精巣)を理解できる。
8回目	魚類の生殖腺の成熟過程(卵巣)を理解できる。
9回目	魚類の性ホルモン(雄性ホルモン)を理解できる。
10回目	魚類の性ホルモン(雌性ホルモン)を理解できる。
11回目	魚類の生殖とホルモンの関係を理解できる。
12回目	魚類の生殖腺の成熟に関係する外部環境要因を理解できる。
13回目	確認テストのまとめ
14回目	評価試験および振り返り
15回目	評価試験返却・解説・まとめ
準備学習 時間外学習	学校の図書やインターネットを利用して、講義の範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価。
【使用教科書・教材・参考書】	
学校図書やインターネットを利用する。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	魚類繁殖生理学 (Reproductive physiology in Fish)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	高山 清次
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	遠隔授業			曜日・時限	土曜日2時限
【授業の学習内容】 魚類の繁殖系の器官の形態と機能について学ぶとともに、生殖器官の生理学や繁殖行動、人工繁殖法などを理解することを目的としている。 ※担当教員:麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】 魚類の繁殖生理学について理解を深め、飼育環境に必要なことを学びとる力を学び、繁殖させたい魚の繁殖を実現できるための考え方やスキルを学び、実践することを目的としている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
16回目	雌性生殖系フナの実験動物化(野生フナの採集法)を理解できる。
17回目	雌性生殖系フナの実験動物化(飼育フナの人工繁殖法)を理解できる。
18回目	雌性生殖系フナの実験動物化(魚体諸元の計測および計算法)を理解できる。
19回目	雌性生殖系フナの実験動物化(精子濃度の測定法)を理解できる。
20回目	雌性生殖系フナの実験動物化(卵の顕微操作法)を理解できる。
21回目	中間テスト
22回目	雌性生殖系フナの人工採卵・人工媒性・人工孵化の手技を理解できる。
23回目	魚類の飼育温度条件と成長および性成熟の関係を理解できる。
24回目	魚類繁殖のための水槽と器具のセッティングを理解できる。
25回目	魚類飼育の良い水質の保持(pH、硬度)を理解できる。
26回目	魚類の繁殖と育成の要点を理解できる。
27回目	魚類の産卵形態別の採卵法を理解できる。
28回目	稚魚の育成(エサの種類と与え方)を理解できる。
29回目	評価試験および振り返り
30回目	評価試験返却・解説・まとめ
準備学習 時間外学習	学校の図書やインターネットを利用して、講義の範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価。
【使用教科書・教材・参考書】 学校図書やインターネットを利用する。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋生態 (Marine Ecology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	児玉 建
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	木曜日4時限

【授業の学習内容】

前期は海洋生態学を中心とし、後期は陸生動物も含めた進化生態学・行動生態学を中心として実施する。
1年間を通して生態学の基礎を習得し、生物間の相互作用について理解を深める。
特に、海洋の物理的・化学的特性を知り、海洋環境と生物の関係、海洋動物における個体間の相互関係などを学ぶ。
※担当教員実務経験:2022-2023年 同授業担当

【到達目標】

生態学の基礎的な考え方を習得する。また用語を理解する。海洋環境・生物の関わりを科学的に説明ができるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション - 生態学とは
2回目	海洋生態学の入口 - 海と陸の違い / 生物の分類 / 海洋環境
3回目	海洋生物の食物関係 - 食物連鎖 / 栄養段階 / 物質循環・エネルギー流
4回目	漂泳生態系① - 植物プランクトン / 一次生産
5回目	漂泳生態系② - 動物プランクトン / 日周鉛直移動
6回目	漂泳生態系③ - ネクトン
7回目	中間試験 - 前半のまとめ
8回目	中間試験解説 - 前半のまとめ
9回目	底生生態系① - ベントス / 生物の分類 / 帯状分布
10回目	底生生態系② - サンゴ礁 / サンゴ礁にすむ生物
11回目	深海 - 深海の環境 / 深海にすむ生物 / 深海の生態系
12回目	統計学に慣れる - グラフの読み方・表し方
13回目	レポート課題 ※教員の出張等に伴う補講としても実施予定
14回目	期末試験 - 前期のまとめ
15回目	期末試験解説 - 前期のまとめ
準備学習 時間外学習	定期試験では、配布資料や授業内容から、正しい情報を理解して活用する能力を問う。 これらの資料を用いてしっかりと復習を行い、その内容を他人に説明できるように練習しておくこと。
評価方法	■中間試験45点、期末試験45点、レポート10点、合計100点

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルの講義資料を用いるため教材を準備する必要はない。ただし講義内容は主に以下の文献を参考に作成しているため、更に深く勉強したい場合は役に立つ。
・生態学入門 第2版(日本生態学会 編 / 東京化学同人) ・シリーズ現代の生態学5 行動生態学(日本生態学会 編 / 共立出版)
・シリーズ現代の生態学10 海洋生態学(日本生態学会 編 / 共立出版)

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋生態 (Marine Ecology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	児玉 建
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	木曜日4時限

【授業の学習内容】

前期は海洋生態学を中心とし、後期は陸生動物も含めた進化生態学・行動生態学を中心として実施する。
1年間を通して生態学の基礎を習得し、生物間の相互作用について理解を深める。
特に、海洋の物理的・化学的特性を知り、海洋環境と生物の関係、海洋動物における個体間の相互関係などを学ぶ。
※担当教員実務経験:2022-2023年 同授業担当

【到達目標】

生態学の基礎的な考え方を習得する。また用語を理解する。海洋環境・生物の関わりを科学的に説明ができるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション - 進化とは
2回目	進化① - 適応度 / 自然淘汰
3回目	進化② - 種分化
4回目	種間競争 - 捕食-被食関係 / ロトカ・ヴォルテラの競争式
5回目	資源をめぐる競争 - タカハトゲーム
6回目	共進化 - 共生 / 寄生
7回目	中間試験 - 前半のまとめ
8回目	中間試験解説 - 前半のまとめ
9回目	性淘汰① - 同性間競争 / 配偶者選択
10回目	性淘汰② - 性的対立 / 配偶システム
11回目	社会行動 - 利他的行動 / 血縁選択
12回目	コミュニケーション - 信号の種類 / 正直な信号 / 騙しの信号
13回目	レポート課題 ※教員の出張等に伴う補講としても実施予定
14回目	期末試験 - 1年間のまとめ
15回目	期末試験解説 - 1年間のまとめ
準備学習 時間外学習	定期試験では、配布資料や授業内容から、正しい情報を理解して活用する能力を問う。 これらの資料を用いてしっかりと復習を行い、その内容を他人に説明できるように練習しておくこと。
評価方法	■中間試験45点、期末試験45点、レポート10点、合計100点

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルの講義資料を用いるため教材を準備する必要はない。ただし講義内容は主に以下の文献を参考に作成しているため、更に深く勉強したい場合は役に立つ。
・生態学入門 第2版(日本生態学会 編 / 東京化学同人) ・シリーズ現代の生態学5 行動生態学(日本生態学会 編 / 共立出版)
・シリーズ現代の生態学10 海洋生態学(日本生態学会 編 / 共立出版)

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクトⅢ (Company Project Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	各企業実務従事者
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日1、2、3時限
【授業の学習内容】 様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。 ※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案ができるようになる。 ・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。 ・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。 ・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。 ・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業プロジェクトとは① ～企業プロジェクトの意義や目的・目標を明確にする～
2回目	企業プロジェクトとは② ～過去の企業プロジェクトの事例紹介～
3回目	企業プロジェクトの進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	オリエンテーション① ～企業から課題を頂く～
5回目	オリエンテーション② ～質疑応答～
6回目	企画立案① ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い①～
7回目	企画立案② ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い②～
8回目	企画立案③ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い③～
9回目	企画立案④ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い④～
10回目	企画立案⑤ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い⑤～
11回目	現地視察・調査①
12回目	現地視察・調査②
13回目	現地視察・調査③
14回目	現地視察・調査④
15回目	現地視察・調査まとめ
準備学習 時間外学習	・各自(各班)で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表(報告)内容:50% ・課題への参加度・出席:20% ・日々の取り組み30%
【使用教科書・教材・参考書】 現場での施設備品、道具類	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクトⅢ (Company Project Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	各企業実務従事者
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日1、2、3時限
【授業の学習内容】 様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。 ※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案ができるようになる。 ・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。 ・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。 ・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。 ・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プランニング・コミュニケーション①-1
2回目	プランニング・コミュニケーション①-2
3回目	プランニング・コミュニケーション①-3
4回目	プランニング・コミュニケーション①-4
5回目	プランニング・コミュニケーション①-5
6回目	プレゼンテーション①
7回目	プレゼンテーション②質疑応答
8回目	プランニング・コミュニケーション②-1
9回目	プランニング・コミュニケーション②-2
10回目	プランニング・コミュニケーション③-3
11回目	イベント運営・商品化①
12回目	イベント運営・商品化②
13回目	イベント運営・商品化③
14回目	まとめ①
15回目	まとめ発表
準備学習 時間外学習	・各自(各班)で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表(報告)内容:50% ・課題への参加度・出席:20% ・日々の取り組み30%
【使用教科書・教材・参考書】 現場での施設備品、道具類	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	卒業課題	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	熊谷 亮太郎
	(Graduation Study)	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が卒業に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。							
【到達目標】 学習成果(知識・技術)をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	卒業課題とは① ～卒業課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	卒業課題とは② ～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	卒業課題の進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定 ～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習① ～自分(班)のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習② ～途中経過の報告～
7回目	実践学習③ ～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備① ～パワーポイント作成～
9回目	発表準備② ～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③ ～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④ ～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤ ～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	卒業課題の振り返り ～各自(班内)で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自(各班)で意見交換を随時行う。 また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容:80% ・課題への参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】 専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	業界研修 (Business internship)	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。 ※担当教員実務経験:研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。 ・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。 ・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。 ・自らの「キャリア」をデザインできる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表(20%) これらを総合的に判断して評価
【使用教科書・教材・参考書】 キャリアセンターの参考情報	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別講義&見学	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	各施設実務従事者
	(Special Lecture)	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

- ・動物業界に必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
- ・動物業界に必要な人間力を理解し、身に付ける。
- ・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
- ・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	ILC国際語学センター
	(Global Communication)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	月曜日 5時限、木曜日 2時限、土曜日 1・2時限
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。 ※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】							
日常生活での情報・説明や、まとまりのある内容が理解できるようになる。また日常生活の話題について、出来事の説明、用件を伝えることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	個人の情報(ライフステージ)に関する表現を学ぶ 間接疑問文を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	段落を意識したメールの読み方、書き方を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	スマホやPCの機能に関する表現を学ぶ [already/yet]を用いた現在完了形を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	ネット広告の読み方、書き方を学ぶ 代名詞としてのoneの使い方を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	公共交通機関に関する単語を学ぶ 助動詞[would/could/should]を使った提案の表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	求人広告を読み、志望動機の書き方を学ぶ 大文字やピリオドなど、基本的なルールを学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	中間試験	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	意見や反応を示す単語を学習する [be going to/will]を使った未来についての表現を学ぶ	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	語頭の/p/の発音を学ぶ。安心させる言葉、またその反応を学ぶ [at least]を用いた表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	ものを失くす、見つける際の表現を学ぶ 単純過去形の使い方を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	驚きを表す際の発音(ストレス)を学ぶ 驚いたことを示す、リアクションに関する表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	都会の問題に関する表現を学ぶ 数量詞について学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	語末のyの発音を学ぶ。様々な状況での心配、また安心を示す際の表現を学ぶ [though]を使った反対意見の述べ方を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	U4-6の振り返り	オンデマンド	振り返り
15回目	期末試験解説、後期に向けて	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (後期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE3			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	ILC国際語学センター
	(Global Communication)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	月曜日 5時限、木曜日 2時限、土曜日 1・2時限
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。 ※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】							
日常生活での情報・説明や、まとまりのある内容が理解できるようになる。また日常生活の話題について、出来事の説明、用件を伝えることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	TV番組や映画に関連する表現を学ぶ [(not) as...as]を用いた比較の表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	映画のレビューを読み、書き方を学ぶ 映画に関する意見を述べる表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	進捗を表す表現を学ぶ 現在完了形と現在完了進行形について学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	タイムマネジメントについての投稿を読む 物事が起こった際の時間を表す表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	雇用、仕事に関する表現を学ぶ 助詞[can't, must not]を使った許可・禁止の表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	履歴書を読む 履歴書の要点、構成を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	中間試験	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	材質に関する単語を学ぶ 単純現在形の受動態について学ぶ	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	/u/、/ʊ/、/əʊ/の発音を学ぶ。他人の選択に関して質問する際の表現を学ぶ [Now that I think...]などを用いた考えを変える際の表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	句動詞[work out, set up, など]の表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	/ʃ/、/ð/の発音を学ぶ。了承を得る、了承を求める際の表現を学ぶ 言葉を和らげる表現[I guess/I feel like]を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	事故に関する表現を学ぶ 不定代名詞について学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	語末のedの発音を学ぶ。自分の感情を述べる、相手の感情を尋ねる表現を学ぶ [in the end" / "after all that"]の使い方を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	U10-12の振り返り	オンデマンド	振り返り
15回目	期末試験解説、レベルB+に向けて	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (後期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE3			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	イベント運営 (Event Management)	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	各イベント実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

- ・企画立案、運営ができるようになる。
- ・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
- ・接客を知り、実践できるようになる。
- ・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
- ・予算管理を実践し習得する。
- ・スケジュールリングを理解し、実践できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備(50%) ・レポート(50%)

【使用教科書・教材・参考書】

過去のイベント資料

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別課外活動	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	各クラブ顧問
	(Club Activities)	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学友会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。							
【到達目標】 ・チームワークを身に付ける。 ・計画性を身に付ける。 ・予算管理を身に付ける。 ・マネジメントを理解し身に付ける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ボランティア活動 (Volunteer Work)	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	各施設実務従事者
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。 ※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。 ・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のボランティア活動報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	資格取得講座 (Seminar for a Qualification)	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	熊谷 亮太郎
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。							
【到達目標】 ・各検定試験、資格試験の合格							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の各検定、資格教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	内定者研修 (Practical Training For Prospective Employees)	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。 ※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。 2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。 3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	就職内定先において業務経験を積む (1)
2回目	就職内定先において業務経験を積む (2)
3回目	就職内定先において業務経験を積む (3)
4回目	就職内定先において業務経験を積む (4)
5回目	就職内定先において業務経験を積む (5)
6回目	就職内定先において業務経験を積む (6)
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む (7)
9回目	就職内定先において業務経験を積む (8)
10回目	就職内定先において業務経験を積む (9)
11回目	就職内定先において業務経験を積む (10)
12回目	就職内定先において業務経験を積む (11)
13回目	就職内定先において業務経験を積む (12)
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる
準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめること。
評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う(100%)。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別研究課題 (Advanced Research Project for Prospective Employees)	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようにする。 ※担当教員実務経験: 就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 1. 業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアをまとめることができる。 2. 課題を解決するアイデアを実践することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (1)
2回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (2)
3回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (3)
4回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (4)
5回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (5)
6回目	課題を解決するアイデアを報告し、質疑応答を行う
7回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う (1)
8回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う (2)
9回目	ブラッシュアップしたアイデアを報告し、質疑応答を行う
10回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (1)
11回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (2)
12回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (3)
13回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (4)
14回目	検証結果をまとめる
15回目	検証結果の報告を行い、今回の課題改善の振り返りを行う
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excellにまとめること。
評価方法	課題を解決するアイデアを実践することで得られた結果を検証し、その報告内容によって評価する(100%)。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	卒業企業課題 (Graduate Assignment for Prospective Employees)	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分	後期
専攻名	水族館・アクアリスト専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。 プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。 実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。 ※担当教員実務経験: 就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。 2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。 3. 採用されたイベント企画を実践することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (1)
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (2)
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (3)
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (1)
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (2)
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (3)
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (1)
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (2)
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (3)
12回目	企画したイベントの実践 (1)
13回目	企画したイベントの実践 (2)
14回目	企画したイベントの実践 (3)
15回目	イベントの振り返りとまとめ
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excellにまとめる。
評価方法	イベントの企画・立案力: 30% プレゼンテーション力: 30% 実践力: 40% 上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。
【使用教科書・教材・参考書】	